

ハワイ旅行の 思い出

中谷 満

渡布二日目の一昨日、本旅行の目的である移民百年記念先亡者追悼法要が在布村人会の方々と共にホノルル本願寺別院で盛大に挙行された。

四日目は真珠湾観光と村人会主催のピクニック参加の日程となった。

午前九時ホテルを出発してホノルル港より観光船で真珠湾に向う、海上より眺めたホノルル市街は一段と美しく絵葉書を見るようである。

約一時間で湾の入口に到着したこの狭い所をかって九軍神として散華した日本の特殊潜航艇が、どうして潜入したのだろうか、四十有余年前の壮絶な戦いが行なわれたことは、うそのような波静かな湾を航行するとき、往時を偲ぶ由もないが、随所に撃破された艦船が現実によみがえる。

戦艦アリゾナ号の沈没地点に指しかかると、観光船を一時停止さ

せ黙祷を捧げ戦死者の冥福を祈る。私もかつて海軍軍人として第二次大戦開戦当日、昭和16年12月8日真珠湾攻撃部隊の一員として駆逐艦でハワイ沖まで来ていたものでなんとも感慨無量であったとにも今日の平和の有難さをしみじみ感じる次第である。



△ 古里ナマリまる出しの
長門ケイコさんの名ガイドぶり
世良忠昭氏提供

この行事は在布村人会の方々が親睦を計るため毎年秋に行なわれる慣しだそうだが、今年は故郷地御前から大挙して渡布することになり繰上げて開催されたそうである。私達が到着した時は村人会の方々が多数集合され、会場や其の他の準備も万端ととのって大変な歓迎であった。丁度昼食となり親戚や知人のもとでそれぞれ楽しい語らいの時を過した。

一世の方々はお年を取られた方が多く、日本からこんなに多人数来て下され本当に嬉しいことだと涙ながらに喜んでおられた。握手を求められた手にも永年開拓の苦勞と歴史を感じさせられました。私達もこの意義あるツアーに参加して本当に良かったと痛感しました。

二世三世をまじえ老若男女入りまじって楽しいゲームも行なわれなごやかなうちにピクニックも終り、今日一日は意義あるよい思い出の一日であったと思う。

後一日で日本へ私達は帰ります。どうか皆さんも元気で故郷日本の地御前をいつまでも忘れないで頑張ってください、心の内でそう願いつつお別れしました。



△ 地御前人会と合同ピクニック
於 アラ・モアナ公園
田原一久氏提供

編集後記

。昭和還暦、21世紀へ第一歩。
。長寿の皆さん新年おめでとうございませう。気分を若く、なごやかに暮し下さい。(心身一如)
。ハワイ訪問の記事・写真……
。古里の誇りを今一度思う。
。誇りは無から生れない。よき芽を育てよう、子孫のために。

じとせんひろば



№ 20
発行 60. 1. 1
地御前コミュニティ
推進協議会

カン ハツアカネ 初茜瀬戸の潮路の神ながら

大前恵兵作



△ 地御前海岸から初日を望む

北野芳文氏提供

No. 20 - S 60

謹んで新春の お慶びを申し上げます



コ推協会長 小方 一郎

前コミュニティ推進にご協力をいただき、発足以来順調な一途を辿り今日に至って居りますことを心から感謝いたします。

我が地区は昭和五十二年六月広島県のコミュニティづくりのモデル地区として指定を受け、地区住民一体となり地域福祉社会の形成に取り組むことにいたしました。そのご事業の内容として、広報・文化・福祉・体育・生活・青少年各部会活動を通じて、地域連帯と互助を基調にした郷土づくりに邁進してまいりました。

戦後我が国の社会状況を見ましても高度成長時代を契機として、経済・教育・福祉・文化、いずれも戦前とはくらべものにならないほど時勢の中で恵まれたものがあると思います。

然し一方最近の人と人との問題すなわち、人心的の問題等に於ては大変昔とちがって敗退している今日コミュニティ実践地区として、

今年のエトは牛(丑)
牛のように粘り強く



又地域連帯の問題として色々真剣に取り組んで行く事が大事なことを思います。
今後、老人・児童・心身障害者・援護を要する方々が、家庭又は地域社会等で温かく支えられながら各種の福祉サービスにつとめ、あるいは青少年が健全に育成されるような心の通う温かい地域福祉社会の形成を、地区住民のみなさんとともに目指して活動を展開し明るい住み良い地御前をつくるようみんなで努力いたしましょう。

新年を迎えるにあたり地域の発展コミュニティ推進に深ご理解とご協力のほど御願い申し上げます。今後のみなさまのご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。

長寿を祝う



千二百年前から

小生今年は古稀を迎える、古稀とは古代稀な年令とされていた。満年令で68才6ヶ月、数え年で70才を迎えたことになる。

今から約千二百年前、中国の唐時代に杜甫という詩人が長寿を祝うのに、還暦・古稀・喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿の祝いを一般に広めたといわれている。

人生50年といわれた、医学の発達していない時代に生れたものである。

昭和の還暦の年

還暦は、満60才になると生れた年の干支（えと）にかえることによるが、日本人の平均寿命は年々延びて男性は75才近く、女性は80才近く延びた現在では、60才はまだ社会の第一線に立つ現役である……。

今年、昭和60年、昭和の還暦の年である。21世紀への第一歩である。

長寿の里

我が地御前地区（小学校区）は廿日市町の人口・世帯の比率は共に約12%、敬老会対象者（満75才以上）の比率は約15%にあたり、どの地区と比べても高令者の多い地区、おめでたいことである。

心身一如の暮し

長寿の原因は、気候温暖で暮しやすいことも原因でしょう。

肉体的、精神的に各個人の方々が優れられていることも勿論であるが、家族・隣近所・地区の方々の色々の心配りが、老人へのやさらぎの心になるのではないかと？

「心身一如」望ましい長寿の秘訣ではないかと思う。

本当の親切とは

親切は押し売りであってはいけない。相手の心を感じとり、真の善意を心から受け取ってもらうこと、お互い努力を重ねなければならぬ。日常の会話から始め、糸口をつかもう。

（S・F記）

昭和59年敬老会の資料による。昭和60年数え年80才になれる方。

サシユ 八十八才 明治39年生11名

其阿彌ハツヨ（旭町）
景山 ハツヨ（金剛寺東）
坂井 ハルヨ（金剛寺東）
中村 ミツ（砂島）
梶井 ヨシ子（北町）
浜田 ミサヲ（緑ヶ丘）
益田 シナ（金剛寺西）
中村 梅子（野坂住宅）
船村 昇（野坂住宅）
市本 君江（堀新町）
中本 イツコ（堀新町）

ベシユ 八十八才 明治31年生13名

磯貝 光三（砂島）
磯貝 ヤチヨ（砂島）
伏本 サダ子（浜之町）
石橋 忠雄（後町）
吉富 可一（後町）
梶井 季雄（北町）
吉本 宇一（北町）
北川 キクノ（中町）
角宮 イソ（鹿子）
勝谷 ヒナヨ（金剛寺西）
片山 シナ（堀新町）
西村 権次（海晴ヶ丘）
田中 カメ（堀中町）

シシユ 九十九才 明治29年生5名

高路 カズノ（金剛寺東）
加美田俊一（砂島）
川本 イチノ（後町）
一郷 喜代三（鹿子）
国岡 のを（扇園）
白寿 九十九才 該当者なし
百寿 百才 該当者なし
一〇一才 明治18年生
高岡 アキ（海晴ヶ丘）
一〇二才 明治17年生
浜本 トモ（金剛寺西）



▲ 浜本トモさん（最高令者）いまとってもしあわせそう
ことしも お元気に

ハワイ移民百年記念

地御前物故者

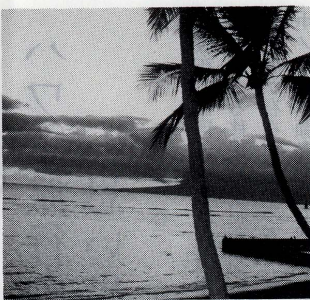
追悼法要について

地御前移民百年先亡者追悼法要は、

昨年、七月六日午後一時から、本願寺ホノルル別院において、親善訪問団員八十二名と現地の方々約二百名の参詣をいただき、厳粛荘厳に厳修せられました。

ホノルル別院御輪番を導師として、当地の西向寺、正行寺両住職西向寺新発意、現地数名の読経に参詣者も和して、作法通り仏説阿弥陀経が動きました。

その間に、小方一郎訪問団長、中村欽吾地御前会長を初め全員



▲ ハワイ海岸 世良忠昭氏提供

焼香礼拝して、丁寧に追悼の誠を捧げました。

現地の供花と一緒に廿日市町からの花輪も荘厳せられました。

御輪番の御挨拶に読いて、本願寺からのメッセージを、西向寺住職が拝読しました。それは、

「町中の所々に樹木が繁り、町はずれは密林続きになっている所が多く、たまにはタロイモ畑や中国人の水田があつて、川にはアヒルがのどかに泳いでいた。当時のホノルルは、いかにも淋しい漁業港に過ぎなかった現地で、初期移民の方々の筆舌に尽し難いご苦労を偲びここに、百年の歴史をふりかえり改めて、先輩諸師のひたむきな開法の歴史に、思を新たにしましょうという主旨のものでした。」

次いで、先代が井口出身の龍口師の法話をいただきました。

特筆すべきは、現地の作法になつている念仏三唱といつて、最後に全員で念仏三唱したことでした。

又、記念の式彰を京都の西陣で別注して、団員もかけ、現地の贈物としたことでした。

その後、別院地下の大広間でパーベキューによる懇親会があり懇親談話をしました。

翌七日、午後四時本願寺ヒロ別院において、ハワイ島地御前出身者追悼法要を致しました。

都合により、地御前訪問団員参加は62名、ハワイ島参詣者約百名で、法要は、前日に順じて厳修されたことですが、講師による法話の代りとして御輪番と両住職が挨拶をかねて、おとりつぎしました。

次いで、仏書会館でご接待の行事があり、盆踊りタオル等と、ハワイ郡市長のスクロールをいただきました。

以上両寺住職の法要の報告とします。



▲ ハワイ島（ヒロ）での法要風景

田原一久氏提供

町の声

地域ふれあいの夢

昭和60年春のある日曜日

小学生の子も父も日曜日に限って早起きです。早起きはこの親子だけでなく、お日様はもうとくに、ここにこ笑っています。

近頃始まったファミリースポーツクラブ出席のために二人ともトレーニングウェアに着替えしました。今日はいつものように地御前小学校校庭に集合し身体をほぐした後、扇新聞地先の海岸ヘランニングします。

午後はお母さんが公民館へ合唱の発表に行きます。まだまだ若いといながら一方では肩がこるなどと本音をのぞかせるお母さんに気分を散らかせたら……とお父さんがすすめて習い始めたのです。高校生の兄は、日曜日は朝寝坊です。というのは土曜日の夜は青年会館を借りてのロックバンド練習でドラムをたたいて疲れているからです。さて、一年先の夢から覚めてみ

ますに、公民館、コ推協を中心に、地域の人びとのふれ合い活動が推進されておりますが、もっと青少年に地域活動の中へ入って来てもらうためには、休日の学校施設の

消防団員

それをささえるもの

さあ災害だ！常備の消防署員と一体となって昼夜、寒暑、悪コンデション等の別なくその職を投げうって災害現場におもむき我々の安全のため献身的な苦勞をする。

消防団員をささえるものは家族である。そのささえがなかったら献身的な仕事はできにくいと思う。その善意に少しだけでも応えなければならぬ道義感からバックアップしているのが消防後援会である。

町内22名の理事、内地御前5名

編集後記

過去四年間13回の「じごぜんひろば」の編集には、毎回目標にあたる標語を掲げ焦点をしばって編集した。

青少年、老人福祉、同和、移民、地域の輪等その時期毎に目標にふさわしい問題を一、二頁に取りあげ、三頁は趣味、教養、郷土史等を、四頁には標語に関係ある「町の声」を取りあげた。

「じごぜんひろば」No.21は過去を振りかえり「知恵を出し力をお寄せよい町に」を目標に編集した。特に今回は青少年部より急な要望があり、特集号「青少年の健全育成」の二頁の増刊をしました。

健全な育成は「明るい家庭から」はどのよう……。非行から守るために家庭、近隣、地域社会がどう取りくめばよいか、阿品台中学校生徒の生活目標「オアシス運動」生徒達と共に全住民が取り組むべきと思う。日常の会話から始めよう。

可能性を求め

英知を結集 豊かな町に

廿日市町長 半明英夫

地方行革が、国、地方とも昨今大きな課題となっております。昭和五十年以降、地方財政は国と同様多くの財源不足が生じておりまして、借入金の累積額は実に五十四兆円にも達しております。このような現況の中で、地方財政の構造的健全化は急務となっております。こうしたなかで昨今、量より質、質より心を大切にする傾向がより強く求められるようになってきました。私たちは、来る二十一世紀を展望しつつ、活力ある、心豊かなまちづくりとともに郷土文化の向上に努力することが肝要であると思っております。二十一世紀になりますと、進行する高令化社会、核家族化等社会経済情勢の変動によってより福祉サービスの需要が増大してくると考えますが、これからは隣人愛を基本として、それぞれの地域が創意工夫して新しい住民参加のまちづくりの推進が必要だと私は思っております。

す。すなわち地域連帯の輪であります。この推進母体が、当地区で申し上げれば、地御前コミュニティ推進協議会であります。町といえども町民の連帯感を強め

ていくことが潤いのある豊かな生活の実現につながることを認識し、厳しい財政状況の中にあっても、可能性、未来、明日を求めて皆様方とともに英知を結集し、心豊かな町の建設に努力をして参る所存です。皆様方の日夜のご活躍に対し深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに今後のご発展を期待いたしております。

きれいな川に

浜之町の町内会では偶数月の第一日曜に午前八時より町内一斉清掃を実施している。川の中の作業は寒い「どうしてこんなにゴミを落とすのだろうか」、不平不満も出る。住みよい環境を夢みつゝ頑張る。理解と協力をお願いする。

浜之町一住民
△浜と砂島の境を流れる
今市川の清掃風景
(新川弘氏提供)



No. 21

発行 60. 3. 15

地御前コミュニティ
推進協議会

じごぜんひろば



知恵を出し力をあわせよい町に

ふるさと映画

ハミリフィルム

地御前の伝統的諸行事等について将来のための記録ともなればと思ひ、大下校長先生のご協力で8ミリフィルムが作製されている。公民館に保管されている。ご希望の方は無料で映写機と共に借し出します。ご活用下さい。

Table with 3 columns: 題名, 製作年月, 時間. Rows include 1. ひらくく地御前, 2. 老人クラブ, 3. 春の懇談会, etc.

Table with 2 columns: 行事, 時間. Rows include 13. 御陵衣祭, 14. 秋祭り, 15. 秋祭り, etc.

昭和59年度 青年会館会計報告

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 収入 (夜間, 昼間), 支出 (電気代, 水道代, etc.).

¥ 2,547 青年会よりの補助で差引残高 0 円 別火災保険料 ¥ 4,550 コ推協より支出

青年会館だより

会館管委員会で右記の通り会計が報告されました。ご使用の時次の事項には特に留意下さい。



とんと風景

とんと

カブ・スカウト

小四 木村道太

とんとへ行った。とってもあつい。竹が「パンパン」とぶくはつた時おどろいた。竹がまっ黒になってたおれ白いけむりが出た。けむりかかったなみだがすこしでた。とんと火でおもちをやいた、よくやけてなかつたけどみんなで食べた。きょねんよりこんどのときのほうがおもしろかったと思います。

予約の取り消しの際は早くご連絡下さい。

青年会館の使用願は。火・木曜日は公民館へ。その他の曜日は。青年会 懸和男会長へ。電話 36-3237

びしやもんさん

林 武二

昆沙門天を訪れる人を時々見かけるようになり、昆沙門天に関心を持つ人が少し増えてきたような感じがする。通りすがりの人等から「これは何ですか」と、問われることも何度かある。

昆沙門天は、仏法守護神として東西南北の四方を守っているといわれる四天王の中の一つ、北方守護神多聞天のことで、独立して財宝の神としてもあがめられており、七福神にも加えられている。

地御前の昆沙門堂の扉には、むかでが画いてある。(扉を修復したのでこの扉は御堂の中に納めて



木造昆沙門天立像 像高 112.0 cm 1本造 (町指定の文化財)

ある)むかでの神さんと言って昔から地域の人には親しまれていた。或る人が昆沙門天に参り「お金をもうけさせてください」とお願いしたところ「むかでの足ほど働きなさい」と言われたそう。この話にはその後物語もあり、お年寄からよく聞かされた。

私の子供の頃の思い出は、昆沙門祭の晩に、太鼓を二人が棒でかつぎ打ち鳴らしながら暗い田んぼの中の小道を歩き回るのが子供の役目でした。大人は御堂にろうそくをともし、うす暗い中で笛を吹いたり四方山話にふけったりして静かな祭りを楽しんでいたりように思った。

昆沙門天のお祭りについて、渡辺通氏の話を聞くと、「江戸時代

地御前村歌を思い出そう

小川タヨ子

前略。私は「じごぜんひろば」を読ませて頂き、ハッと胸をうつものがあつた。それは私が小学校の頃学校行事の時や、村の人達が集った時よく歌った地御前村歌である。あの歌詞、そして曲、何とすばらしい歌でしょう。あの歌をよくかみしめて歌ってごらん下さい。人間として、地域社会を生きて行く道が、ちゃんと示してあるではありませんか。

山と海に囲まれた狭い地御前、

何とか海外に雄飛して、古里の父母を案にさせてあげたいと、明治の初期ハワイに渡った若者たち、苦しい労働にたえるため体を鍛え何ものにもくじけぬ不撓の精神と決意、その心を受けつぎ、平和な村をつくるのは後に生れたものの任務である。村人は心を合わせ、互いに仲良く村が栄えるようはげましよう。何と力強い地域の団結を誓った歌でしょうか。

私は北支にいた時、ホームシックになると古里の山、海辺のなごさを胸にえがきながら、『地球の上を家と見て、万里の波濤を物とせず、海外遠く渡りゆき、雄飛に名ある我が村ぞ』と歌い、懐かしい古里を偲びました。

この歌の中にある精神を、長く忘れず後の世までつないで欲しいと思います。

地御前には伝統的な行事や、神社仏閣、由緒あるほくら等数多くあります。これ以上自然をこわさないで、地御前独自の風習や行事をいつまでも残して欲しい。

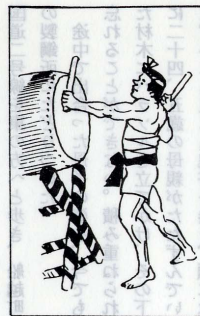
古里の民話や伝統行事を、一つでも伝えて行くのが、生れ育った者のつとめだと考えると、私もまだボケてはいられないと思う。

盆



約二千五百年昔、インドのお釈迦さまのお弟子たちは、四月十五日から七月十五日まで、お釈迦さまの所に集合して、研修をしました。それは、雨季なので、外出が困難なものと、微生物の繁殖する時期なので、踏み潰して殺生することを避けるためでした。この時に参加して修学することを、安居と言いました。

お釈迦さまのご説法がお経ですが、うら盆経と言うお経があります。お釈迦さまは、『生物はその行いによって良くも悪くもなる。来世もその通りで善い行いをするものは良い境涯に生れ、悪い行いをするものは悪い境涯に生れる。自業自得である。』と説かれるが、お釈迦さまの弟子の目連尊者が、修業によって神通力を得て、母の行末を観ると、餓鬼道で苦しんでおられた。どうしたらお母さんを救うことができるかを、お釈迦に尋ねた。お釈迦さまは、『目連よ、母にかわって安居の終った日に、仏弟子にご馳走をしないさい。』と言



旧の七月十五日の満月の日であることから、七月に盆をする地方もあるが、関西では八月である。盆踊りは、目連尊者が歓喜のあまり踊りくるわれたであろうことを偲び、あやかろうとする行事である。当地では盆踊りのはやしうたに「踊る馬鹿たれ 見る奴も阿呆 太鼓叩きの調子もん 盆の十五日に 踊らんものは

われた。その通りにすると、母は、餓鬼道の苦しみから逃れることができた。目連尊者は、手の舞い足の踏む所知らず歓喜したと、言う物語りのあるお経である。

インドのウラバーナと言うことばが、うら盆であるが、さかづりの苦しみからまぬがれるチャンスと言う意味である。盆は供養する器と解する説もある。わが国では、祖先崇拝と結びついたうら盆の行事となっている。

いんで ションベンして 寝るがよい
その娘さん 腰から下を一夜かりたや 夜明けまで」等とあります。

終戦までは賑やかに、町と浜の二ヶ所で、連夜夜の明けるまで盆踊りがありました。これらのはやしうたは立派な音頭の間にはやしたてたものです。踊りも、当地独特のものであり、名手と言われる人も大勢ありました。

盆踊り大会

とき 8月15日(木)8時より
ところ 中ノ町商工会駐車場
皆様の永年のご援助、ご協力によって太鼓を新しく張り替え、本年は盛大に行ないたいと思います。夕涼みがてら ご家族そろっておいで下さい。

地御前文化保存会

映画会

あ、野麦峠

とき 8月25日(日)
午後7時より
ところ 地御前公民館
上映時間 2時間34分
主催 地御前地区同推

明治後期、岡谷の製糸工場へ赴き過酷な糸繰り工女の生活を、悔いなくけなげに生き抜いた飛弾の少女たち、その不屈な青春群像を秋の飛弾、冬の野麦峠を背景に山本薩夫監督がエネルギーに演出する。

家庭における 非行防止の10ポイント

- ①子供を育てる責任の自覚を
- ②笑いのある家庭づくりを
- ③しつけに自信父親の厳しさも愛
- ④家庭は最も身近な社会
- ⑤子は親を写す鏡である
- ⑥三つ子の魂百まで
- ⑦子供に自信とやる気を
- ⑧つらさに耐えるたくましい子に
- ⑨のはそう子供の自主性と自立心
- ⑩健全な家庭環境を

じとぜんひろば



№. 22
発行 60. 8. 5
地御前コミュニティ
推進協議会

他人の子も 見守る気づかい 我が子に映る

青少年育成廿日市町民会議 本年度標語入賞作品 谷 浩 作



親の心得

子どもたちにとって、学校から開放されて自由に振るまえる夏休みの楽しみは、今も昔も変わりがありません。

しかし、私たちが心配するように夏休みが問題行動のきっかけになる場合も少なくありません。そこで校外補導などとさまざまな巡回監視指導による非行対策が考えられ実行されています。

ところで地域の子どもを守る私たちひとりひとりには、どう心得るべきでしょうか。

なんととっても 子どもの心を聞く窓には、あいさつ運動、つまり声をかけ合うことにあります。おとなも子どももお互いにあいさつをしあうことです。顔みしりになることが、地域を明るくし、子どもの非行防止のきめてともなり

ます。
次に大切なことは、われわれ大人が、青少年のお手本になることです。



△地御前保育所提供

水あそび



真夏の光をあび
水しぶきをあげ
仲よく
楽しく 遊ぶ
子どもたち。
たくましく
育ってほしいな。
きみたち みんな
いい子だな！
いい子だな！

青少年健全育成につきましては、いつも心に留めていただきまして有難うございます。

す。特に学校の長期休みが続く時がおおくなっているのは見逃せません。夏休みに入り、子供達の気持も幾分開放感にかられていく所に、多少続いているようです。

子供達にとっては、心楽しく、思いきり遊べる夏休みです。

しかし、親達にとっては、大変な時期です。特に、母親にとって、三度の食事の世話を始めとして、家事労働の増える時です。

昨今では、フルタイムにしろパートタイムにしろ働いている母親がたたくさんおられることでしょう。忙しさを、暑さに負けて、昼食代やおやつ代として、お金を子供に渡していないでしょうか。

そうしたことから廿日市町校外輔導連盟と、青少年育成廿日市町民会議のメンバーで、7月25日より10回夜間バトルロールをし、「一声運動」を実施して行き、危険場所、ラクガキ場所も調べて歩き、子供達が安心してすごせるよう地御前地区メンバーも阿品台中学校区を廻ります。

地御前コミュニティ推進協議会の青少年部も、バトルロールに参加しますので、地域の皆さんで協力よろしく願います。

青少年育成廿日市町民会議
会長 木本文三

お菓子売場や、自動販売機の前
にいる子供達が、よく目につきま
す。

休みが終るまでは、『まあ仕方がない』と安易にお金を与えず、弁当を作り置きたり、大きな子には、簡単な食事を作らすなど、色々工夫したいものです。

育ち盛りの子のためにも、正しい金銭感覚を養う上からも、今一度考えてみたいと思います。

K
•
M
生

組織表

青 少 年 12 名 北野孝 田島久美子 懸和男	生 活 9 名 磯貝旭 島村浩克 佃正隆 江盛正洋 西山敬司	福 祉 11 名 宮本忠夫△梶上清三 出羽信正 井上正子 花岡孝待 中村修三 友田健一 掛本常子 吉本玲子 長見喜勝 村上百合子	文 化 15 名 勝谷武夫 成田重勝 増村春男 新田邦彦 松野真哉 北野正喜 勝谷義昭 世良忠昭 益井 忠 美川政己 船村滝司 佐神真佐男	報 告 7 名 吉本武 △藤本唯俊△北川徳夫 伏本節夫△新川弘 △岡田恵子 吉田布枝 谷口照彦 横山裕幸 板垣公朝	副会長 松本 武 山崎 憲子 顧問 中山光次郎 理事 井上喜良 中山薫 中川辰美 中山光次郎
---	---	---	--	--	---

監査 河原範文 木戸博美 林達雄
 〇専門部部长 △同副部长
 〇林扶美夫 △小方昌之 △神本登志江
 花田重之 田中祐子 香浦金吾
 相良宏三 中山正次 美川忍
 名 21 田島幸雄 阿部信行 南正行
 鳥丸安男 長門信司 海田展啓
 大倉肇 小方正弘 市川武志



「○○さんは運動会のお世話をされている。前日諸準備されたのに雨で中止になり、よごれた TENT を川で洗ったり本당にご苦勞さんでしたね」

「町のためにお忙しいにもかかわらず種々な部面で奉仕されているのですね」

「私までできるだけ お手伝しなくちゃ」。

(1) 原爆体験記

昭和20年8月8日 朝早く三次駅を出た。芸備線広島行の列車の中は、広島全滅だという話でもちぎりだった。屋根もない荷物列車に乗りかえて、やっとのことで、広島駅の一つ手前の矢賀駅にたどりついた。あれはと、まづ目に映ったのは、駅のホームに所狭しと体を横たえている負傷者の山だった。みんな目を閉じ、口もきけないのか苦しうにうめき、あえいでいた。白衣の兵隊もまじっていた。汽車はもう動く気配はなかった。私は、息もつまる思いで、男女の別さえ分りにくい、むごたらしい負傷者のひしめく間へ降りたった。

広島市の東寄りの郊外にある日本製鋼所では、戦時中、銃砲や銃弾を造っていた。その分工場が三次刑務所に設けられ、ここに収監されていた女囚を使役して銃弾の部品を造らせていた。私は日本製鋼所から派遣されて、三次で勤務についていた。

この日、私は製鋼所への連絡のため
広島へ入り、原爆の惨禍、恐怖の現場
を見ることになった。

乗客は、線路づたいに広島駅へと歩

「何はともあれ用事をすませねばと、国道二号線を東の方へ歩き、船越町の製鋼所にたどりついた。

途中で出会った母子の姿を、今でも忘れることができない。積み重ねられた材木にバラソルを立てかけ、その下に二十四、五歳の母親がたずんでいた。手にも足にも包帯を巻き、顔にははは紅ならぬ赤チンキを塗っていた。そばの乳母車には、包帯を手に巻いた赤ちゃんが乗っていた。母親は、今にも泣き出しそうな悲しげな顔で、子供を見つめながら途方にくれていた。私はそのまま通りすぎたが、にぎり飯の一つもあげて元気つけてやればよかったのにと、今でもくやんでいる。戦時下の殺ばつた日々の中に心がむさび、人間らしい心を失っていたのだろうか。製鋼所の被害は大したことはなかった。用事をすませた後、広島駅へとひ

七つのポイント

- ① ふれあう
親子のふれあいで心の対話を
- ② きたえる
読書とスポーツできたえよう
- ③ たえる
心と体を
- ④ 自分でする
わがままをおさえ、根気強く
がんばる子に
生活のリズムを整え
自立した生活を

きかえた。

蟹屋町の製鋼所分工場（元東洋紡績）

蟹屋町の製鋼所分工場（元東洋紡績）に立寄ってみると、工場内は被爆者でいっぱい、足の踏み場もないほどだった。

あちらでも、こちらでも、水をくれ水をくれと大きな声、今にも息絶えそうなる悲しい小さな声、水をほしがって狂う人、じっと見る人、誰かが「どうせ永くないんだ、ほしがる水を腹いっぱい飲ませてやれや」と言う。

すると医者の一人が「水をやるとすぐ死ぬぞ」と止める。どうすればよいのか、見守る人は、おろおろと、ただ涙にむせぶばかり。どれだけの人が、

水を水をと言いながら死んでいったの
だろうか。

大声で子供を呼ぶ親、親を求めて泣
き叫ぶ子供の声、それらの声がだんだ
ん小さくなって聞えなくなつたその時
声の主はあの世ゆきだつた。そんな悲
しさ、つらさはどんなだつただろうか、
なんともむごい運命か。

そこへ死体収容のトラックが来て、
屍を無造作に、投げこむように積んで
行つた。急ごしらえの大葬場へ運んだ
のだ。どんなに多くの人が何所の誰れ
とも分らないまま、誰に見守られるこ
ともなく焼かれ、永遠に行方不明者と
して地上から消え去つたことでしょう。

育てる

イント

⑤ しつける

身につけよう、基本的生活を

⑥ きまわりを守る

きまわりは家族で話し合い、譲へ独

規則正しい生活を

⑦ 思いやる
生まれてきてよかったと
喜び合える人間関係

県教委資料

県教委資料

恐怖の想い出

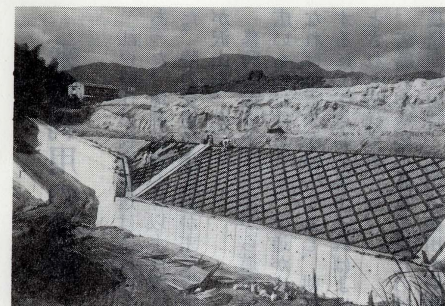
(2)

原爆体験記

新川 綾夫

蟹屋町の製鋼所分工場の前から爆心地と言われる方角を見ると、鉄筋コンクリートのビルだけが、ボツン、ボツンと立っているだけ。一番手前には山口町の広島合同貯蓄銀行が、その向うに流川町の勸業銀行、中国新聞社、八丁堀の福屋百貨店が焼けただれた残骸をさらしていた。鉄骨の電柱も鉛のようにとけたのが、中ほどからぐんにやりと曲り先端が地面についていた。すさまじく、惨たんたる状況は人間だけでなく、見た者でなければとても信じられない事ばかりと思う。

丁度その時、米軍のB29が飛来したとか、もう空しゅう警報のサイレンもならない、全市停電鳴るはずもない。地上のあちこちで被爆者がうめいている。上空では敵機の爆音。防空ずきをかぶって、ただうろちょろするだけで生きた心地はなかった。



て歩いた。道端にテントを張って救護所が設けられていた。軍医や看護婦ら数人が薬をつけたリ、包帯を巻いたり、救護に懸命だった。しかし、次から次へと、二人、三人と死んでゆく人は後を絶たず、私はぼう然とするばかり、無事でいるのが不思議なぐらいの気がした。

焼け残りの隣組告示板に、ソ連に対する宣戦布告の詔勅が下り、

戦争状態に入ったとの報道した新聞(呉新聞)が貼られていた。

太平洋の彼方から来る米軍機に對しても手も足も出ないのに、つい目と鼻の先のソ連から攻められたら、どんなひどい被害を受けるか、火を見るより明らかである。負けを知らぬ無敵の軍隊を誇る日本だ、と大口をたたいた東条英機大将の言葉がうたがわしくなってきた。私も日本男児の一人として忠君愛国の精神に固まっていたのだが、淋しく暗い谷間に落ちこんで行くような感じをどうしようもなかった。(つづく)

金剛寺小学校校地造成中

小学校を建設することを目的として開発されるもので合せて優良なる宅地と共同で開発造成することを目的に昭和57年中に土地の買収が完了され、現在造成中である。当初の計画では総面積五万五千㎡余、学校用地二万二千㎡、宅地一万二千余㎡(七〇戸)、道路公園汚水処理場其の他となっている。昭和61年度中に校舎を建築し昭和62年4月に開校の方針である。

編集後記

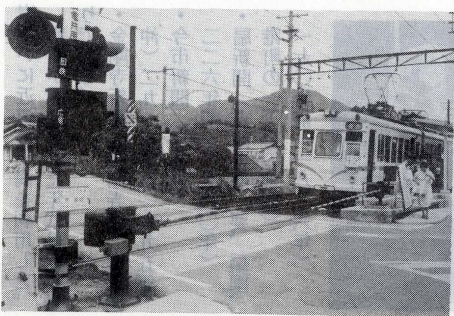
○電停のホームの改善、朗報である、喜ばしい。安全への施設の改善も必要であるが「まだ渡れるは、もう危ない」気をつけよう。○新旧の道をかえりみた、生活道路も自動車交通の不能な狭あい道路が多く防災の上不安もある。○次号予告(三月号)青少年の健全育成が今日の教育の課題である、当地区の青少年が参加する団体の活動状況を紹介したい。

地御前電停

ブラットホームの改善

松本 武

一月一五日の中国新聞は地御前電停の改良の話し合いがあったて改善案の喜ばしい結果を報じております。ほんとうに近頃になじ朗報であります。大正一四年宮島線電車が開通し、停留所が小学校体育館の沖側の国鉄線を越した所、埋立ての三角地帯に設けられていた。そのうち阿品さわら浜の今のバイパスの合流点より少し地御前寄りに新宮島駅ができ、その沖に宮島連絡船が発着していた頃から考えてみるとほんとうに永い間にこの踏切でどれだけの人々が犠牲になられたことを思うと一日も早く改善された姿がのぞまれます。保育所帰りの自動車、国鉄と電軌の間に停車して、将来を囁目されていた人が事故に遭ったり、学習塾に急ぐのあまり事故にあった学童、そのことで時のPTA役員さんが熱心にこの問題に取り組んでおられた記憶。警報機がついた頃のこと、トラックに乗っていた多数の人たちの事故、お通夜



帰りに事故に遭われた方のこと、こうした踏切についての記憶には数多くのものがあり、走馬灯のように次から次へといういろいろな思いがいたします。つい最近に、電車を降りて警報機が鳴っているのに電車のものと錯覚して貴い生命を失なわれた方もあります。町への陳情書に署名して下さった方の一人は先日、不帰の客にな

られました。一日も早く改善案が実現することを願って止みません。このことについて、熱心に推進して下さった多くの方々のご苦労に對し、わけても、町当局のご尽力に感謝しています。改善案とは、電車停留所ブラットホームを上り線、下り線とも、電車が踏切を過ぎてから人が降り降りするような状態に変更改善することです。

電鉄宮島線

開通年月日

己斐―草津間 大・11・8・22
廿日市まで 大・13・4・6
地御前まで 大・14・7・15
新宮島まで 大・15・7・15
宮島まで 昭・6・2・1
昭19・6・25・7まで廿日市宮島間は、下線軌道を取り外した。戦時下の要請に応じ広島駅宇品間の比治山線と、軍需工場のために江波線を新設した。宮内の電停は旭兵器工場のためにトンネル西側から現在地になる。地御前電停 広鉄局管内事故発生ワーストワン(24年間で21人)

じとせんひろば



№ 23
発行 61. 2. 5
地御前コミュニティ
推進協議会

「まだ渡れる」は「もう危ない」

古い道・新しい道

廿日市郷土文化研究会

地御前踏切の安全対策が検討され、町民の要望通り、電車の上下のホーム移設が決定された今日、古い道、新しい道を語りながらより一層我が身を守る交通安全を考えたい。

さいの神とハゼの大木

昔宮内に通じる（さいの峠）にさいの神が祭ってある。サイは閑所の意味で他村から入る病、悪れいを監視する神ともいわれる。ハゼの大木は町の文化財として昨年指定された。



さいの峠伝説

昔、このへんを「さいの峠」と呼んでいた。ある年ひとりの行者が「村と村の境には、道しるべがある」と言っていて山の下から石を拾って立て、ついで「ハゼの木」を（三百年以前）植えたのが今に残っている（お世話をする 山下良之助さんの話）

また或る人の話によると「三五〇年以前の昔に有名な和尚さんがここで休んでいると、ここを通る旅人がそのたびに道を聞くので、道しるべを立てるために下の海辺から石を拾い、山からハゼの木を持ってきて植えた。今は道祖神と呼んで手を合わせて拝んで通る」。

右広島道の道標

●干潟通路
東に向う道はさいの峠の次は海

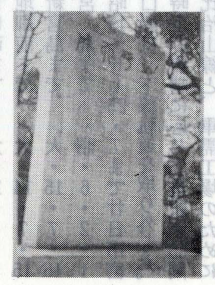
岸沿いに近道の干潟を利用した。新開が開発された年代は次の通りである。

- ・金剛寺新開（金剛寺東、旧国道沖）二九一年前（一六九五年）
- ・今市新開（浜之町）二二六年前（一七六〇年）
- ・扇新開（金剛寺西、要、扇園、港町の二丁目の地域）一七〇年前（一八一六年）



●移転と交通事故

現在神原理髪店（胡町）の角に立っている道標は以前は元山啓三氏宅（浜）の角に立っていた。旅人が広島方面への道を迷うので明治九年に道標を設置したが、旧国道ができたので現在地に移転され活用された。この道標も大正八年頃交通事故のため折れ新調され、昭和三〇年頃トラックの衝突のため折れ、折れたまゝ、現在地に埋立られた。



旧国道

道標のぎせいで家が助かったと喜ばれ、今も昔も交通事故はつきものと思われる。

江戸時代の街道は大野の中山峠から宮内へ、越峠より廿日市へ通じていた。坂道多く近道として干潟を通路として利用もした。



現在この道は旧道と呼ばれ町の中心街でもある。

一里（四料）毎に一里標が設置され西は大野との境に、地御前では金剛寺に、東は桑々園停留所の裏に一里標がある。

観光道路（二号線）

昭和五、六年頃は世の中が不景気で失業者が増加し、これを救済のため国道改修工事を起し、地御前串戸まで六年に、廿日市まで八年に、舗装は十一年に完成した。広島宮島間に観光道路として作られた新道は、当時「なんと馬鹿でっかい道を作ったもんだ」と驚かした道路も今は狭くなった。

自動車道

国道二号線の交通緩和のため、西広島バイパスが四八年に建設され、廿日市ニュータウンの開発へと発展し、地御前地区では五四年以降人口は急増した。中国縦貫道も開通し、山陽自動車道も建設中、広島南道路も計画進行中、世はまさに交通新時代を迎えようとしている。

乗物利用の変遷

江戸時代の物資輸送は主に船であった。地御前港も今以上活躍した。陸の交通は歩くのが主で坂道が沢山あった。

幕府の軍事上の政策から道中の広いものは作らず、又道が広くなれば年貢米が減少するし、耕作するにも牛馬ねこ車が通ればよいとされた時代であった。

広島人が始めて荷車を見たのは長州征伐の時、尾張の徳川の殿様を持参した時であったと（元廿日市町長佐伯好郎さんの話）

道路の改修、鉄道の開通（広島徳山間明治三五年）宮島線の開通により、乗物の利用状況に変化がみられた。

荷車は明治九年、荷馬車は二十五年頃に運搬が盛んになった。大八車便（まち便）は大正十三年に廃止となった。

地御前港から宮島への渡海船の客便は昭和六年に廃止となった。横断は、見るくせ 待つくせ 止まるくせ。

町別人口世帯数

(昭和60.12現在)

町内会名	人口	世帯
旭東	97	42
金剛寺	320	122
砂西	349	103
要浜	228	77
胡後堀	187	61
堀堀	177	64
堀堀	166	60
堀堀	289	95
堀堀	118	41
堀堀	108	49
堀堀	76	27
堀堀	260	83
堀堀	127	37
堀堀	77	29
堀堀	282	83
堀堀	402	180
堀堀	405	128
堀堀	153	46
堀堀	154	54
堀堀	151	47
堀堀	366	116
堀堀	471	152
堀堀	365	101
堀堀	608	217
計	5,998	2,014

発展する地御前 "ひずみをなおそう"

廿日市町は昨年十一月の国勢調査の結果人口五万二千余人、日本一の町となる。人口の約三分の一、一万八千人が地御前地区（阿品地区を含む）に住み、私達の地御前（小学校区）地区に別表の通り約六千人、二千余の世帯が生活している。

以前は地御前全体で四千人余りの人口であったが阿品台等の開発により急増した。地御前地区（小学校区）でも、野坂地区（野坂・野坂住宅・緑が

映画会（無料）

ねむの木の詩
主演 宮城まり子
ところ 地御前公民館
とき 二月十一日十三時半

恐怖の想い出

原爆体験記 (終)

新川 綾夫

宇品線にそって少し下った。鶴見橋のあたりで制服の警防団の人が、二、三歳ぐらいの子供五、六人を荷車に積み泣きながら曳いて来るのに出会った。真夏の太陽が照りつける炎天下、子供はおしめカバーだけ、帽子もかぶらず、体じゅう赤チンキだらけ、お乳も飲んでる様子にも見えなかった。

そこを通りかかった警防団員が「おい、どこへ連れて行くんだ」と聞いた。車をひいていた人が涙をぬぐいながら顔をあげて答えた。「さっきまでは親の傍にいたんだが、親たちが次から次と死んで行ったんで、どうしようもないから子供ばかり収容している段原小学校へ運ぶんだ」と言って、目に涙をため唇を噛んで泣くのをじっとこらえながら車をひっぱって遠ざかった。その惨めさ。

私は可哀想で、まともに子供の顔も見るにたえず、ただ目頭を押えるだけ。この地獄の有様、この世に神も仏もないのかと、ぼう然と立ちすくんだ。車を見送りながら両手を合わせ、無事を祈るだけだった。

けだった。いっしょに見送っていた団員は「ちくしょう、こんなことがあってえんか」と大声で叫んで、固く握った拳を振りながら宇品の方向へ歩いて行った。

それからどこをどう歩いたのか、あまりのことに気が動転していたせいか、はつきりと覚えていないが、壊れた瓦や切れ落ちた電線、焼け残りの材木などがうず高く散乱する焼け跡をさまよったあげく八丁堀の福屋の前に来ていた。当時、福屋は広島すい一の高層ビルで、憧れのデパートだった。これも新兵器の前にはひとたまりもなく、窓ガラスは壊れ、壁は焼けただれて黒ずみ、見るも哀れな姿に変わっていた。

そばには、焼けただれた電車が線路をはずれて横道おしになっていた。中では無惨にも、何人かが真黒い炭のかたまりのように黒くけになって死んでいたようだった。乗客が乗務員か、みんな肉親がいるのにとすると、生きてこの様を見ている自分が無事でいるのが奇跡のようにさえ覚えた。

電車通り一帯は瓦やガラスの破片、切れ落ちた電線やコンクリート片などがうず高く散乱し、どこが道路なのかも分りかねる状態だった。ただどういいうわけか、電車通りの真中に、50煙巾の人が一人歩いて通れる程の地面が見えていたでもそれも相生橋までだった。

橋より先はどうなっているやら分らず、橋の上には両側の欄干が倒れ、電線も切れ落ちて、通るのがむづかしい程だった。帰る時刻も迫ってきたので、私は大急ぎで広島駅へ向って歩き出した。恐怖の現場から逃げ出したかったのだと今にして思うのです。

昭和20年8月8日、私が灰燼の広島市内でこの目で見た感じだ。一生忘れることができない、悲しい恐怖の想い出である。

がんばっています

おじいちゃん
おばあちゃん

廿日市町に高齢者事業团があることは、すでにご存知かと思えます。この事業团には60才以上の方々が、それぞれに長年の経験や特

技や持ち味を生かし乍ら元気に働いており、あちらこちらで調法がられております。町全域で約一三〇名、地御前地区では二〇名ほどの方が参加されております。仕事の内容は高齢者にふさわしいあらゆる業種にわたっており、発注者の要望によってその作業に最適と思われる人を事務局で人選してさしむける仕組みになっています。そしてその作業の内容等に依じて通常よりも低い価格で利用されて好評を得ております。ともかく人生経験豊富で誠実な方ばかりで、何かと良く気が付き一生懸命で真面目にその仕事に取り組むすがたには、たいへん好感がもたれているようです。

事業团では各方面のあたたかいご理解とご支援並びにご要望に答えるべく、一段と内容の整備充実をはかって、発注者の方のご期待に副うと共にたとえ僅かで、住み良い地域社会づくりに参加できることを念願し、又私達が生甲斐を感じるような事業とすべく、一同微力ながら頑張っているところであります。今後共各方面並びに各位のお引立とご支援をお願いする次第であります。 一会員〇

じとせんひろば

No. 24

発行 61. 3. 20

地御前コミュニティ

推進協議会



他人の子も見守る気づかい我が子に映る

青少年健全育成 入賞標語

竹馬づくりの思い出

地御前小学校長

北野 孝

古きをたずね、新しきを知る。古いもののよさが、ともすると忘れられがちのこの頃ですが、先日、二月十一日、地御前コミュニティ推進協議会文化部の方々が、五、六年生児童に呼びかけて、公民館で「竹馬づくり」の指導をしてくださいました。道具を使う上での注意、製作順序を聞いた後、一斉に作業にとりかかりました。慣れない手つきで鋸やペンチを持ち、友達同志助け合っ中、十時半頃には全員完成し、早速、乗って楽しむ子ども、自分の作品をつくづく眺めている子ども、どの顔も喜びと自信に満ちていました。

今回の竹馬づくりで言えることは、ただ物を作る技術だけでなくその過程に於いて、話し合いがあり、経験し、行動し、失敗し、思考しながら、自らの力で生活をきり開いていく大切な面が育ったと思います。また、大人の方々と接触が深まり、その中で言葉使い、公共施

設での態度等、礼儀作法も多く学びました。

さて、竹馬の友ということばがあるように、私達の子どもの頃には竹馬が流行し、高さを友と競い遊び方にもくふうを凝らしたものでした。そうした遊びの中から、調整力、特に平衡性「バランスのとれた動き」巧緻性「リズムミカルな動き、タイミングのよい動き」

が育ってきたように思います。

今、子ども達は、新しく時代の変わりつつある中で、古い物への見直し、自分で作った物で遊ぶことのすばらしさを感じております。コ推進協議会文化部の方々に厚くお礼を申し上げるとともに、今後、子ども達が、体力向上に一層の関心を持ち、すくすくとたくましく育ってくれることを願っています。

地小PTA

立哨指導

PTAの方は左記の場所で開催時立哨指導されている。

- 感謝すると同時に大人は範を示したい。
- ①金剛寺三池店付近
- ②電停、国道付近
- ③地御前神社前踏切
- ④大蔵神社横
- ⑤正行寺横
- ⑥公民館付近
- ⑦堀ガート付近
- ⑧てい信交叉点付近
- ⑨緑が丘入口付近
- ▲学童の竹馬づくり
- コ推進協議会主催
- 於地御前公民館



人間性豊かな町づくり

コ推協会長

小方 一郎

私達の住む地御前地区が、広島県のコミュニティづくりのモデル地区として指定を受けてより十周年を迎えましたが、その間地元の方々に、コミュニティ推進にあたりましては、絶大なる御協力を頂き順調なる一途を辿り、今日に至りましたことを心から感謝いたします。

コ推協といたしましては過去十年の実績を反省しながら、今後の重点目標に向けて推進することが最も大きな課題でもあります。戦後から四十一年を経過し、その間、高齢化社会その他多様化してきた社会状況の中で、地域社会をとりまく環境の変化はいちじるしく複雑多様なものがあります。

戦後経済・福祉・教育その他政策上に関連した事項については戦前にくらべれば相当恵まれた時代であるということはいえると思います。

このような成長経済の中で培わ

れた利己主義的な社会思想を反映して、人間同志の連帯意識の喪失であります通常の生活をよくなくし得ない、いわゆるハンディキャップを背負った人たちの無関心の増大であります。このような一連の社会的傾向は、私達の居住する地域社会そのものの形式すら危くするに至っていると申しても過言ではないでしょう。

このような状況のなかで今こそコミュニティ推進を中心にして住民自治の精神に基づいて、地域住民の連帯意識をたかめ、活力と生甲斐のある地域づくりを進めることが現在最も大切なことではないでしょうか。

それではこのような問題を、それが解決していくか、現在世の中の歩み方は健康管理・人間福祉にしても、一人一人が自主的に、誰かがしてくれるというのではなく自分が実践していくことが、家庭という小さな単位から、地域、さらには町へと大きく広がって明るい住みよい町づくりになるのではないのでしょうか、そのことが我々は地御前に生れてよかった、又この地を永住の地として求めてこられた皆さんも、お互いに生甲斐の

ある理想的な町づくりだというふうに考えています。

今後コ推協運営並びに明るい地域づくりのため協力頂きますようお願い申し上げます。

しあわせな生活

望郷の念

明治18年最初の官約移民がハワイに到着してから百年目にあたる昨年、ハワイ各地に於て官約移民百年祭が盛大に開催された。

日本からも常陸宮殿下をはじめ多くの人が参加して、その祭りを盛り上げた。私も行事にあわせ、風景撮影と移民調査にハワイ諸島をまわり、シダの洞窟で有名なカウアイ島で全く予期していない地御前出身者に出合った。



▲綿田さんご夫妻
ハワイの自宅にて

その人は、綿田（旧姓松本）要一さん81才。カウアイ島の製糖工場で35年も監督をされた後引退されて、現在はハワイ生まれ（日系二世）の奥さんと共に悠々自適の生活を送っておられる。その間、ハワイ東部奉仕会会長、カウアイ日系人連合協会会長、明治元年移民百年祭の実行委員長など勤め、現在カウアイ広島県人会会長をされている。

17才の時、母の呼び寄せでハワイに渡り、一日75セントの製糖工場での重労働はつらいものだったが、地御前での大工の修業が役に立ち、その後の人生を大きく変え製糖工場内で大工の仕事に携わり手腕を認められ日本人では最初の監督になったり、戦争中はアメリカの国防工事にかりだされ、多くの部下と共に幾多の難工事を成し遂げたこと、終戦後に親善施設団で日本に帰国し各地を回り広島にも立ち寄り「ハワイ事情講演会」を開いた話など、懐かしそうに話してくださいました。

ハワイに渡って以来60数年の歳月が流れ、幸せな生活の中でもやはり、望郷の思いは強いようです。

（田原一久 写真家）

地域の子供たち

何事も進んでやる生活態度を身につけた子供達を育成していくことが今日の教育の課題であります。

会以外で青少年が参加している四団体を簡単に紹介します。

ボーイスカウト

ボーイスカウトは、世界の国々の約千五百万人の青少年で組織されています。自然に親しみ心と体を鍛えてよき社会人になろうとする男の子の集りで、小学三年生から大学生まで隊員になれます。

今年夏には蔵王の高原で全国大会（ジャンボリー）があり、当団から8名参加、全国で一万人のスカウトがキャンプします。

本部 地御前三丁目二二―二三
西向寺 Tel 36―〇八二二

正行寺日曜学校では、仏様のみ教えを聞いて、やさしい心を育て社会のためにつくせる人間となるよう頑張っております。

日曜学校

小学生なら男女誰でも入校でき月2回の日曜学校と、四季折々の楽しい行事のプログラムを組んで仏の子供として、思いやりのある人間になるよう、心の勉強をしております。

地御前三丁目二一―五五
正行寺 Tel 36―〇〇二九

剣志会

青少年の心身の錬磨・技術の向上を図り、剣道を通して「清く、正しく、たくましい」人間に育てることを目的としている。

会員は原則として、小学校3年以上のもの

クラブ責任者

一 地御前三丁目22―14 佐伯慎二

TEL 36―0090

場所 七尾中学校体育館

稽古 毎週水・土曜日

18時より21時まで

柔道少年団

柔道を通して青少年達の健全な心身の鍛練や礼儀の習得を目的とし、またスポーツ団体としての規律ある活動を通じて自主性を育成する事を図るもので勝負に重点を置きません。

場所 地御前小学校 体育館

練習 毎週月・水曜日17時より20時まで

対象 小・中学生の男女

代表者 森康彦 Tel 39―〇八〇七



▶ 第一回県下スポーツ少年団
柔道大会（60・12・15）中学生の部
優勝 地御前柔道スポーツ少年団

峠三吉「原爆詩集」磯永秀雄作品集より。日時 4月15日（火）

6時45分より

場所 廿日市中央公民館

入場料 大人 1,500円

中学生 1,000円

小学生以下観同件無料

実行委員会

中央公民館 青年学級

後援協力要請団体

老人クラブ 婦人会

遺族会 商工会 教育委員会

PTA 町民会議 町同推

劇団はぐるま座公演

夏の約束

劇団はぐるま座公演



いじめと 心のふれあい

最近の新聞を見ると毎日のように、いじめとか、子供の自殺のニュースが目に入ります。一般的には常識では考えられないことである。又他の地域で起っていることなので、他人事とはおっておくわけにはゆかない。地御前地域においてはこのようなことは聞いていないが、いつ、どこで起るかも知れない。

そこで考えられることは、家庭、学校、地域との三つが協力しながら、子供達を見守ることが大切である。

家庭では親と子の話し合い、学校では先生と子供達との信頼関係、地域では家庭と学校の間での大人と子供の信頼とあいさつが必要となるのではなからうか。

そのためには、町内での近所つき合い、お互いの子供を我が子と同じように見ること、友達どうしのつき合いを両方の親が知り合うことも大切であると思います。

ただ単に他人の子は知らない。悪いというだけでなく、地域の人達の理解が必要ではないだろうか。

そのためには、お互いのあいさつが大切である。地御前小学校・阿品台中学校共、あいさつ運動が行なわれています。我々の地域も町内会を中心にコミュニケーションとしてあいさつ運動がより以上に大切だと思います。

その一つとして地御前コミュニティ主催の年に一度の町民運動会がある。地区対抗でのそれぞれの応援合戦、対抗リレーの応援ぶり等を見ると各地区の皆さんが丸となって大人も子供も大きな声援を送っている姿はなんともいえません。地区での出場者えらび等、大変なこととは思いますが、これも一つのコミュニケーション運動を通して非行防止の一つではないかと思っています。

これは一例ですがこのような行事を通じて今後、家庭と学校と地域とが一体となり、地区の非行防止の運動として、心のふれ合いの中から、よりよい住みよい町づくりと、いじめと、非行のない町づくり、地域の皆さんのご協力とご支援を受け、よりよい地御前地

区をめざして行きたいと思っています。

青少年部長 綱谷 勝市

青少年育成廿日市町民会議にご理解とご協力をして下さっている地域の皆さんありがとうございます。三月二日 青少年育成について先進地視察をして参りましたが「デースカッション」を通して、さすが県の表彰を受けられた価値のある育成だと、感心して帰りました。

廿日市町地区子供会は、小学校課程を終えますと子供会とのきずなも切れて、中学生、高校生は、地域のつながりも薄らいでいるのが現状です。廿日市内でも、一部の子供会が中学生までを入れて

いる所もありますが、それも中学生の参加が少ないということです。この度の視察は、本四架橋で大きく飛躍しようとしている因島市です。多少地形的に廿日市町とは条件が異なりますが、子供会も単位子供会から、地連子供会、県連子供会までどの会もまとまり、結びついていくということです。中学生、高校生は、各地区のジュニ

きずな

た。

一言、ひとこと即答してくれ中学生、高校生のリーダーの目が輝いているのに、とても好感を持って帰りました。今後町民会議としまして、一つでも中学生も受け入れられるようなサークルを取り入れて見ようと思ひ、各部会での話し合いが始まりました。

青少年育成廿日市町民会議

会長 木本 文三

青少年特集

いじめをどうみる

廿日市町青少年指導員

いじめの問題がとりあげられない日はないといってよいほど、次から次へと深刻な報道がなされている。すべての人がなんとかしなければと心配し、その対応に知恵をしぼってみても、なかなか決定的な対策はないようである。なぜだろうか。

それは、今日のいじめが、根深い社会的な病根にねざしているからであろう。つまり、子どもの世界でのいじめは、ある日、突然に起るのではなく、起るべくして起っているように思う。その源は家庭教育であり、それを誘発するものとして学校があり、地域社会の環境があり、大きくは今日の社会そのものにあるといえよう。

そのことを子どもたち自身は自覚していない。ただエタノールの知れない、いらいらとした感情にさらされているのである。

(3) しかも、いじめっ子、いじめら

れっ子にとって不幸なことは、まわりの親や教師、大人たちが、その責任を当の子どもに押しつけていることである。教育とか愛情とかの名のもとに、いじめっ子も、いじめられっ子も追いつめられているとも言える。説諭し、罰を与えることでいじめをなくしようとしたり、いじめられっ子にしっかりとせよなどと励ますことによって解決しようとしてもなかなかうまくいかない。最も大切なことは、その子の身になることつまり、その子の心に触れることであろう。真の教育、愛情というものは、そういうものでなければならぬと思うのである。私たちは、子どもの将来を考えると、いうが多くの自分の考えを押しつけている場合が多い。子どものかげがえのない個性をのびのびと生かすために、どうすればよいかを冷静に判断するゆとりがほしい。

い。そうすれば子どもの行動や生活に必要以上に抑圧することがなくなる。子どもがいらいらも子ども自身によって制御されてくる。また、必要以上に劣等感をいだかせることもなくなる。しかし、親として必要なきびしいしつけも子どもの心に受け入れられていくものである。

青少年健全育成に

関する入選標語

- 。おてつだい みんながしてる
- 。よい子の日
- 。大わらい すればするほど
- 。明るい家庭
- 。明るい食卓 会話はずめば
- 。笑顔がいっぱい
- 。思いやり 心と心を 結ぶ糸
- 。助けあう 心が結ぶ 三世代

「いじめ」を生まない

土壌づくり

「いじめ」を子どもの社会から追放するためには、「いじめ」を生む土壌をなくすることが基本です。このために親は家庭で何をすればよいのかを考えてみましょう。

○子どもにやさしさ思いやりを

人を思いやる心の大切さ、共に助け合い、支え合う心を体験を通して教えましょう。

○自分の心をコントロールする力を

求めるものを全て与えるのではなく、がまんすることを教え、子どもの心の中に耐える力を育てましょう。

○子どもの評価を多面的に

子どもに対して教科の成績だけでなく性格や行動その他様々な活動面での良さを認めて、個性や特性を十分伸ばすようささえていきましょう。

○自分で考え、行動する力を

良いことはほめ、悪いことは叱るなどして、人として備えるべきしつけをしっかり身につけましょう。

○たくましい心と体を

スポーツや、地域の集団活動に積極的に参加させ、耐える力、協調する態度、思いやる心を育てましょう。

じとせんひろば



№. 25
発行 61. 5. 20
地御前コミュニティ
推進協議会

知恵を出し 心あわせて よい町に

すばらしい日本の国

廿教委 教育長 岡田 智治

現在私達の住んでいる日本は、誠に結構な国である。多くの文明の利器と社会機構のお陰で家事も旅行も交通も大変簡単、便利になった。情報は正しく速く伝えられ、教育はすすみ、人命は大いに尊重されている。産業公害、食物の複合汚染、巨大技術の大惨事やストレスの蓄積といった問題はあっても、人の心は安定している。また治安はよく、完全な平和が長らく続いている。恐らく今の日本は歴史の中で最も幸せな時代であろうし、現在の世界の中でも最も心地よい国の一つであろう。

これは日本が世界一教育大国であるという土台の上に資源制約が育った日本的勤勉さにはかならないと思う。

今私達の身の廻りにはお金さえ出せば大抵のものは手に入れることができる。しかし石油からはじまった世界経済の成長が昭和54年の第二次石油危機以来、資源には限りがあるという大切なことを



▽生がい広場―馬鈴薯植付け作業

これから世界ではより労働時間の短縮が考えられるという。特に日本人は働き過ぎだと言われている。加えてコンピュータの発達によって私達の身の廻りから余分の時間を生み出すことになるだろう。これからますます豊富になる自由な時間は更に人々の情報吸収を拡大し多様化する社会へと変って行くに違いない。人生80才台といわれる今日、この豊富な時間をどのように有効に使うかお互に考えたいものです。

昭和60年度 コ推協の主な 事業報告

- 5/19 地区町民運動会(雨天中止)
- 6/26 チアガール共演会
- 6/21 御陵衣祭のやぶさめ神事
- 8/1 管弦祭のお洲堀
- 11/1 ゴミ持出し場所の整理作業
- 15/1 供養盆踊大会
- 19/1 ひとり暮らし、寝たきり老人宅の訪問見舞
- 20/1 金剛寺墓地の清掃奉仕作業
- 9/15 敬老会
- 1/10 とんど祭
- 2/21 竹馬、つくり



ジョギングとは、ごく軽い駆足のことで、近年身心の健康保持増進の目的で取組んでいる人が多くなつたと聞きます。事実これを続けていると気分爽快で腰痛、肩凝り等はいっつのまにか忘れてしまいます。又循環器系統等に頗る好影響が認められることは、そのすじの諸先生が公表されています。

ジョギングの利点としては、誰でも、何時でも、何処でも出来ることで、自分の都合の良い時間帯で、場所でも、一人でも、誰とでも気軽にできます。

時折り走るコースや時間帯を変えて走ってみるのも又面白味が加わります。ことに早朝のジョギングは最高だと思えます。四季夫々に自然は次々とその装いを変えて愉しませてくれます。こうした自然の移り変わる有様を目にし乍らの早朝のジョギングは、何かと心を和ませてくれます。このことは、ジョギングしている者への自然からの恵かも知れません。気候もた

いへん良くなりました。思い切って戸外に出て、走ってみませんか。ことに年配の方で日頃とかく運動不足になりがちなお方にいかがでしょうか。初めのあいだは多少きつく感じるかと思いますが、少し走っては少し歩くと繰返し乍ら、五分間でも十分間でも続けるそして徐々にその時間を伸ばして、いつかは25分から30分間くらい続けられる程度まで、もってゆけたらよいのではないかと思います。ここまでくれば後はもう気分良く続けることが出来るはずです。仲間があれば尚一層楽しく続けることができます。

さて注意しないといけない点としては、ジョギングは決して無理してはいけないことです。「無理をすると逆効果となり、かえって身体をこわす」。身体の不調の時や気分のすぐれない時などには休むことです。長く続けることが最も大切のようです。

自分の身体にあわせて気楽に走ることです。健康はお金のみでは自分のものに出来ない場合も多々あるように思います。自分自身の努力で健康の保持増進をはかることも大切でしょう。ジョギングを

続けているうちに、自分の年令とか、身体に合った走り方が、おのずと会得できるはずですよ。自分のアイデアを活かして身体に合わせ、気軽にやってみましょう。尚ジョギングの前と後の軽い体操と汗のしみた下着はすぐに替替えることも是非お忘れなく念のために。

楽走会O

インディアカ教室の開催
日時 6月2日(月)より毎週
19・30〜21・00
場所 地御前小学校 体育館
廿日市町体育指導員協議会

聞き慣れない新顔のスポーツ、だれでも練習なしでゲームに溶け込め、家族みんなで気軽に楽しめるスポーツです。

スポンジが入った直径10センチの革袋に20センチの羽根をつけたもので、羽根付き革袋打ちです。バドミントンコート内で打ち合う。ルールは六人制バレーボールとほぼ同じで、一チーム四人制。15点先取した方が勝ちです。運動できる服装でご参集下さい。

編集後記

○コ推協総会号「知恵を出し心あわせてよい町に」を標語に掲げ編集した。心のふれあう明るい住よい町、さてどうすればよいでしょう。

○「すばらしい日本の国」の玉稿を戴きました。人生80才といわれる今日、この豊富な時間をどのように有効に使って行くかお互に考えたいものです。

○佐伯中央農協(廿日市・大野・佐伯・吉和)の野菜品評会で素人野菜作りが玄人にまじって好成绩を収め、講師・生徒の地道な努力が認められた。

○コ推協の理事会も各支部も活発に動きそうです。次回は九月末を目標に、秋祭を中心にお送りする計画です。

趣味教養の広場、町の声の欄もあり、六百字程度の原稿を希望します。

○広報部として一、二の件につき報告しなければなりません。現在、にえつまつていませんので次回にご報告します。

昭和61年度

「推協事業計画」



青少年部☆☆☆

。青少年の健全育成活動の推進を図る。

。青少年を取り巻く社会環境の浄化を図る。
。青少年の非行防止に対する気運の盛りあがり運動の推進を図る。

よい友、よい家、よい地域をめざして、各種団体及び関係機関と連携を密にしなが、地域活動への参加意識を高めると共に、住民相互の連帯を強め、心のふれあう明るい住みよい共同社会の建設を推進する。

広報部☆☆☆

。じこぜんひろるの発行 年3回
コミュニティ活動の内容を広く紹介。ふるさとの紹介。
現代の提言。

体育部☆☆☆

。地域住民の体力の増進を図る。
。子供たちから高令者まで一体となつて地区運動会を開催し、体力増進と心のふれあいの場をつくる。

文化部☆☆☆

。御陵衣祭・管弦祭・秋祭の諸行事。盆踊・とんど祭等古くから伝わる文化的諸行事を再現し、

福祉部☆☆☆

盛り揚げ、青年会に呼びかけ実践活動を推進して後世に伝えよう。

。独り暮らし、寝たきり老人の訪問見舞。

。高令化社会のなかで、高令者が健康を保ち一時的にも楽しくすごしていただき、生きがいを感じえ長寿を祝福する敬老会の実施。

。福祉施設への助成、支えとして光が園、聖ミカエルの家、未亡人クラブ、草の実園、保育所保護者クラブ、障害者団体等、六団体。

生活部☆☆☆

。地域住民の積極的な奉仕活動により環境衛生を推進し、清潔で快適な共同社会の建設を図る。
。正しいごみの持出しの啓発運動の実施。

。高令者の社会参加の一環として共同墓地清掃奉仕活動を行なう。

眠る地御前南町遺跡

分布状況説明への発掘

昭和40年9月消防貯水標建設のため、南町住田寝具店前の町道を掘り下げたとき、地御前小児童によって土器を採集し遺跡発見につながった。

町当局は専門家の広大松崎教授に調査を依頼、縄文時代の中期、後期にかけての石器・土器片。けもの骨・魚の骨・貝類等一万点。



△今回発掘された土器の一部

田原 久 提供

家庭菜園教室



ジャガイモは、何処へ成るんですか？今から12年前家庭菜園教室での生徒さんの質問である。昭和49年4月1日に農協合併で現在の佐伯中央農協になった時から開校になった教室で今でも続いている。開校以前は、農青連といって野菜生産グループが毎月研究会を開き、キュウリ、ナス、トマト、苺等を生産していたもので、時代の変遷に伴い産地としての維持が出来な

昭和61年度地御前地区コ推協収支予算書

収入の部 (単位 円)		
項目	予算額	説明
会費	168,000	100円×1,680世帯
助成金	160,000	町社協より
諸収入	2,000	
繰越金	160,858	
収入合計	490,858	

支出の部 (単位 円)		
項目	予算額	説明
運営費	83,000	会議費 10,000 事務費 10,000 地区活動費 20,000 雑費 43,000
事業費	395,000	広報 90,000 文化 45,000 福祉 90,000 体育 90,000 生活 25,000 青少年 55,000
予備費	12,858	
支出合計	490,858	

昭和60年度地御前地区コ推協収支決算書

収入の部 (単位 円)		
項目	収入済額	説明
会費	168,100	100円×1,681世帯
助成金	160,000	町社協より
諸収入	27,781	寄付金 利子
繰越金	147,175	
収入合計	503,056	

支出の部 (単位 円)		
項目		説明
運営費	28,120	会議費 3,360 事務費 0 地域活動費 2,000 雑費 22,760
事業費	314,078	広報 80,000 文化 45,000 福祉 89,320 体育 58,800 青少年 40,958
予備費	0	
支出合計	342,198	
収入合計	503,056円	
支出合計	342,198円	
差引残高	160,858円	昭和61年度へ繰越

昭和60年度 青年会館会計報告

(昭和61.3.20 現在)

項目	収入	項目	支出
使用料	60,000	電気代	19,096
補助金	16,000	水道代	10,200
電気使用料	5,000	し尿収集	22,000
火災保険	5,460	ガス代	9,000
合計	99,150	障子洗い張り	12,000
収入合計	99,150円	火災保険	5,460
支出合計	77,756円	合計	77,756
差引残高	21,304円	61年度へ繰越	

青年会館だより

△家庭菜園教室の学習風景



くなつたのである。

そこで家の庭先の片隅でも栽培出来る、家庭菜園教室と名づけて婦人部を中心に、毎月第二水曜日に開き、一般の希望を募った。

さて生徒が集まるだろうか？教室を開く事が出来るだろうか？と不安に思いながら待った。知人から知人へ、友人から友人へと誘い40数名の主婦や主人が集まった。野菜を多少作っている人、全然土もいじった事もない人達もいる。

さて、講師の先生は(農協職員)何から話したらよからうかと悩んだ。先ず季節毎に栽培するもので、最初の基本から話した。畑の耕し方、種子の蒔き方、除草、防虫等年々回を重ねるうちに、参加者も多くなり、現在60名ばかりの方が参加し、働く喜びと、自分で栽培する野菜で健康を合言葉に、勉強とコミュニティと楽しい家庭菜園教室が開かれており、栽培技術も向上し、毎年開催される野菜品評会では、入賞者が続々出ている。又最初の質問者も自分の庭の垣根を利用して直径30センチ位のスイカを栽培されるようになった。今後この教室を続けて行きたいと思ひます。

熱い波

被爆者救護活動の記録

地御前地区

被爆ノ時の経過とともに、救護活動に携われた方々の高齢化が進み、当時の模様を記録に残す作業は一刻を争う時期です。九名の委員内地御前地区では、佐伯修、須槍ヒサコ両ご婦人のご苦労によって救護活動の記録ができあがりました。

地御前地区では左記の方々の記録です。

(敬称略)

吉本 宇一 47才 村役場助役
浜田千代美 22才 農 会
柴田ミサ子 28才 婦人会班長
板垣 春枝 40才 住職夫人
瀬土常三郎 19才 日本製鋼所
一郷喜代三 49才 青年学校長
以上の方々の40年前、原爆投下前後のなまなましい記録が記載されている。

地獄絵さながらの当時の惨状―核兵器の恐しさ、平和の有難さを痛感する。

町教委を始め、編集委員の方々に貴重な体験をご提出された方々に

敬意と感謝申し上げます。

熱い波のうねりが湧き起き「永遠の平和」を祈念する。

資料 町教委発行「熱い波」

F生

自立する映画

若い男女の結婚 就職。病気の老人に対して又主婦が学生アルバイトに対してとった態度。こうした日常みられる、人をべつ視する姿勢態度に問題があることを気付く映画。

左記の日時、場所です。上映。ご参集下さい。

10月18日(土)7時半

於 青年会館

対象 野坂町内会

10月25日(土)7時半

於 住宅集会所

対象 野坂住宅町内会

11月1日(土)7時

於 野坂集会所

対象 三景園 町内会

緑ヶ丘

編集後記

○『地御前のうぶすな(産土)の氏子ぞ我等』を主題として編集した。伝説、信仰と歴史、共にそれなりに認め、信仰のさまたげになってはならない。

○長寿者番付十傑表、五年前と

俳句

会員作品抄

地御前公民館
俳句クラブ

尾崎 白堂
たおれてもしたかに
咲き秋さくら
吉本 鼓角
鐘を揃え漁港は早寝
臘月

廻廊の丹塗りすすみ神の留守
大前 恵兵

鐘撞かんひるりひるりと草ひばり

比べると同じ名前前は男女二人だけ平素から敬老の精神でありたい。長寿者も後輩のため現況に応じたお導をお願いしたい。

○映画『自立する』青年の心の動き、大人の考え、どうあるべきか、人生の先輩として考えさせられる、毎日が勉強だと思ふ。

○ご投稿を深謝します。次回は二月頃に予定しています。

№. 26

発行 61. 10. 3

地御前コミュニティ

推進協議会

じごぜんひろば



じごぜんの うぶすな神の氏子ぞ我等

大前 恵兵衛

大歳神社

宮司 飯田 亀丸

鎮座地 廿日市町地御前

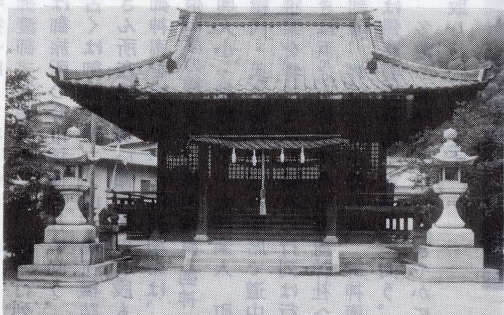
字南町一五〇七番地

社名 大歳神社

御祭神 大國魂大神

鎮座年月日 地御前村字平原大歳

より寛政元年九月外宮御山へ鎮座。



大歳神社(氏神さん)

地御前大歳神社

郷土史研究家

渡辺 通

伝説によれば、この社は、地御前神社(明神社)が鎮座された推古天皇(五九三)頃以前から、地御前の地に祭られていたそうである。

祭神は、お名前から判断すると、出雲の素盞鳴尊の子で大年神という、農業方面から国土経営に協力された神であります。大國魂大神だという言い方をすると記録もあります。

昔の地御前村の北の出入口に在る八面神社(祭神、大蛇、水神)や南の出入口に在る岩神社(祭神、足那雄、農耕者)と共に、地御前は最初、出雲政權下に在ったが、後に大和政權下に移ったことが推察されます。

社殿が今のようになり、小学校の南隣の丘陵地に移ったのは、寛政元年(一七八九)九月二十五日のことです。それ迄は、田屋の奥の平原という所の山の東麓(俗称、大歳)に在ったが、それ迄、田屋に住んでいた村上、谷口、香林など数軒が何故か一勢に、町の方へ移ったので、或る時、田屋の一本松からの参道上で、転倒気絶した一村民に「此処は淋しい、人里繁き所へ移せよ」と夢で託言があり、現在地へ移されたと言われています。旧地平原は今も西広島バイパス用地になり、旧参道は鉄道開通で廃止、一本松も枯れ、田屋方面の旧態は今も想像も困難です。

社地は、昔は東と北の両側は五段の石垣で機敷状に築かれていたが、これは馬飛ばしを見るためだったそうです。昭和二十六年、上の一段分、地面は切下げられました。南隣の丘陵地は、明治末期からの海面埋立工事のため採土され、今、凹地となり、人家が建ちました。

今の社殿は昭和三十年の改築です。秋の祭日には、昔は、庄屋や村長が村民を代表して祝詞を奏し、御神輿や天狗鼻も出て、村を挙げての賑わいでもありました。戦後は社会状況、人心の激変で、老人層には淋しい想いがする現況です。植樹などを行い、地域住民の心の拠点の一つとして、何時までも維持に心掛けたいものであります。

大歳神社の祭礼



文化部長 吉 本 武

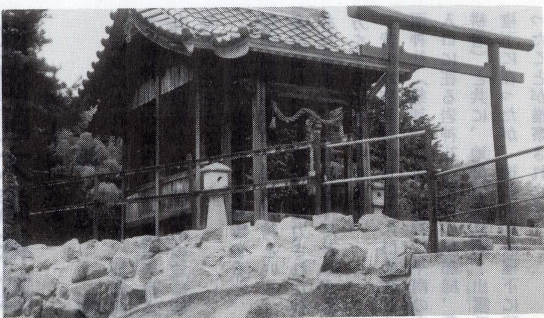
この里鎮守大歳神社の秋祭り、古くは地御前の秋祭りは中の九日といって十月の十九日に行なわれていた。町村合併にともない神事も今日では十月第二日曜に統一されました。

大歳神社の祭礼は前夜祭十月十一日土曜日で巫子舞・浦安の舞の奉納から初め翌日十月十二日(日)



▲大歳神社の祭礼 (神原理髪店提供)

午後一時より御列祭に引続き祭礼御渡御式神輿大小二台、巡幸行列は御旅所の今市稲荷神社に向う。古くは御旅所が二ツ山、現在橋詰さん所在地の高い傾斜面の石段も御神輿を担いでいた行列順席は、猿田彦の神(天狗)・眞榊鉾旗・御神輿大小・神職巫子・太鼓衆人町総代・氏子総代有志の順席で道中雅楽を奏でながら祭礼の行列は行きは浜之町経由で今市稲荷神社へ到着、お祭と巫子舞の後、御神輿は帰路要町経由大歳神社に向う。多数の参拝者の中、にぎやかに取り行なわれます。



▲改築された稲荷社

今市稲荷社

総代 中川 辰 美

鎮座地 地御前2丁目今市219

社地90坪。

御祭神

倉稲魂命・大田命・大宮姫命を奉祀する。

伏見稲荷社の御分神で五穀豊饒商売繁昌の守り神であります。

ご縁起によると、今より二百数

十年前、江戸時代(西暦一七六四年)安永2年癸巳年2月御桃園天皇、10代將軍徳川家治公の時代今市砂島の当所に御社殿を建立し奉祀したのがはじまりとあります。その後明治25年、昭和25年(現在の社殿)の二度社殿の改築、氏子百人の記録があります。先の大戦後中止されていましたが氏神社大歳神社の御神幸祭が数年前より地御前コ推協文化部、氏子総代その他有志の方々の発議によって復活され、現在稲荷神社がそのご旅所となり祭事が行なわれております。(戦前は二ツ山の石段を上った場所でした。)

この度お旅所としての祭事が容易に執行できる広場を確保するためと幼児の安全な遊びとしての利便も配慮し、境内の整地と併せて社殿の補修を行ない次代に引き継ぎたい念願で世話人協議の上その工事費のご出宝方と懇請申し上げ多額(約百七十万円)のご理解あるご協力をいただき、立派に完成いたしました。

世話人一同を代表しご協力賜わりました皆様に心より厚くお礼申し上げます。

地御前の「地名一考察」

伏 本 節 夫

①地御前 音頭 権兵衛作
地御前よいとこ その名のいわれ
宮島さんの 地の御前じゃとか
むかしや 鯛の 干むしろ

②わしらの町でさ 見せたいもんは
宮島さんのおかけんさんよ
しょう ひちりきで 御船が進みや
月がのぼるよ 島の上。

▲地御前神社(明神さん)



蔵島神社のおん前の地方であるところから、地御前と言う名がつけられたといわれる。
『ちのごぜ』がなぜ『じごぜん』になったのか。
大正14年7月15日に電鉄宮島線が地御前まで開通した。その時の停留所名が『じごぜん』と記入された。ちのごぜよりもじごぜんの方が語るのがよいところから自然的に『じごぜん』となったと伝えられている。

ではなぜ「ち」を書かずに「じ」になったのか。「ち・づ」は普通「じ・ず」を使うように定められている。
しかし特別の場合、例へば鼻血(はなぢ)。月々(つきづき)のように漢字の『ち・づ』がにじった場合は鼻ぢ、月づきと決められています。地御前の地は「地方」の意味だから「ぢごぜん」とすべきであります。現在の電停の名前地御前広場の名も定着していることから変更する必要もないでしよ

長寿番付

男女別十傑表

男氏名	町内会	生年月日	年令
1 羽佐田良吉	新港	22.3.2	
2 今村 布	金剛寺東	23.3.15	
3 木庭 吾三	緑ヶ丘	27.4.1	
4 二井寿太郎	緑ヶ丘	27.8.10	
5 吉本 清一	浜之町	28.2.3	
6 一郷喜代三	鹿子	29.3.17	
7 加美田俊一	砂島	29.3.20	
8 船村 正一	浜之町	30.2.3	
9 村上 行藏	南町	30.3.21	
10 沖野 亀一	砂島	30.8.22	
		89	89

町内会	男	女	計
金剛寺東	6	15	21
金剛寺西	3	10	13
旭砂要	0	1	1
旭砂要	12	12	24
浜胡後	3	9	12
堀中	4	5	9
堀中	6	4	10
堀中	2	2	4
堀中	0	5	5
堀中	11	16	27
計	24	96	120

75才以上

町内会・男女別調査表

女氏名	町内会	生年月日	年令
1 高岡 アキ	海晴ヶ丘	18.10.6	
2 中野マツノ	堀中	24.11.23	
3 川本 チセ	南町	25.3.2	
4 鹿嶋 ソデ	胡町	26.1.20	
5 松本 テエ	南町	26.3.14	
6 谷口 タマ	新港	26.6.15	
7 大前ワカノ	要町	26.9.1	
8 谷川 ツル	金剛寺西	26.9.15	
9 永本キヌヨ	鹿子	25.10.10	
10 石川イツコ	三景園	27.2.15	
		92	93

じとせんひろば



№. 27
発行 62. 2. 20
地御前コミュニティ
推進協議会

創造と工夫で生かせコミュニティ

寒さの一段と厳しい時節となりましたが、地御前地区コミュニティ推進協議会会員の皆様には、益々健康で活躍のこと、お喜び申し上げます。

さて、昭和五十二年に発足いたしました地御前地区コ推協は、本年で満十周年という誠に意義深い節目の年を迎えたわけでありますが、この間、歴代の会長さんを中心に「新しいコミュニティづくり」推進のため、各般にわたる事業活動を展開されて地域住民の融和と連帯意識の高揚を図られるなど、着実にその成果を挙げておられるご努力に対し、衷心より敬意を表する次第であります。

顧みれば、経済の高度成長に伴う経済優先、人間疎外の風潮などにより社会にひずみが生じ、隣社会の崩壊が憂慮されはじめた昭和五十二年、広島県知事よりの「新しいコミュニティづくり」の提唱に呼応して、いち早く地区内の各種団体が結集されて、地御前

廿日市町長 半明 英夫

地区コ推協を結成されるとともに県社協および本町のコミュニティづくり実践地区として県下で最初の指定を受け、以来明るく住みよい町づくりの推進に積極的に取り組んでいただいているところであり、その運営と成果は内外から高く評価され、今やコ推協の先導的役割を果たしておられます。

申し上げるまでもなく今日の社会が、価値観の多様化や都市化の進展など、社会環境の急激な変化により、心のつながりや潤いのある生活を失いつつあることから、人間性の回復と住民相互の温かい心のふれあいを生み出すことが要請されております。住みよい町づくりの実現には、行政が生活居住環境の整備、コミュニティ活動の拠点となる施設等の条件整備に努めるべきは勿論であります。住民一人ひとりが自らが居住する地域に愛着を持ち、社会の一員としての自覚によりコミュニティ活動に積極的に参加されることであり、

人間尊重の理念に基づく 快適な都市づくりの先達として

大きな期待を寄せております。

人間尊重の理念に基づく快適な都市づくりの先達として、地御前地区コ推協の今後益々のご発展を祈念し、併せて本町が取り組んでおります昭和六十三年四月の市制施行に対し、皆様の力強いご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



故小方一郎氏



コ推協会長は副会長松本武が代行

表彰

火の用心

浜之町子供会

浜之町子供会は昭和16年から（戦後3年中断）現在まで、年末一週間町内を夜間パトロール（40分）で火の用心と拍子木を鳴らし防火活動をしてきた。

今回廿日市町本町子供会と共に来る3月7日（消防記念日）に表彰されることになった。

私達の町は特に家屋密集、道巾狭く防火活動が困難な地区で、大



人も子供も平素から防火に心配りをしていて、今回の表彰は子供達の永年の努力が認められ、町民一同喜んでいる。（元町内会長）

春の火災運動

2月28日～3月13日

1. 火の用心 7つのポイント
2. 寝たばこや たばこの投げ捨てをしない。
3. 子供は マッチ、ライターで遊ばせない。
4. 風の強いときは、たき火をしない。
5. 天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
6. 家のまわりに「バケツ」を置く。
7. 燃えやすいものを置かない。
8. ふろの空だきをしない。
9. ストープには 燃えやすいものを近づけない。

餅つき

町内で寒餅をついた。道具等はみんなもちよった。希望される方もついた。ぜんざいも腹一杯食べた。ばたん雪も まった。楽しいついででした。

＜浜之町 餅つき大会（1月26日）＞



胡町

収納庫

胡町では昨年11月2日に山下泉さんの土地に、収納庫を購入した。経費六万五千元、年来の望がとげられ喜ぶ顔、顔、顔

＜町内会長 北野芳文氏撮影＞



地区町民運動会

5月17日(日)

コ推協発足満10年、運動会と併せて記念行事を行なった……との話題がのびっている。

同和教育研修会

主催 地区同推協議会
日時 2月28日 夜7時～9時
場所 地御前 公民館 3階
講師 三次市役所 大谷 清 先生

編集後記

『創造と工夫で生かせ、コミュニティ』を主題に掲げて編集した。半明町長さんより「人間尊重の理念に基づく快適な都市づくりの先達として」玉稿いただき、10週年に当り反省し前進を図りたい。「消える丸子山」本当に淋しいですね。前向きに考えたい。危険地区の解消と漁業振興へ。お互いのあわせを祈る。

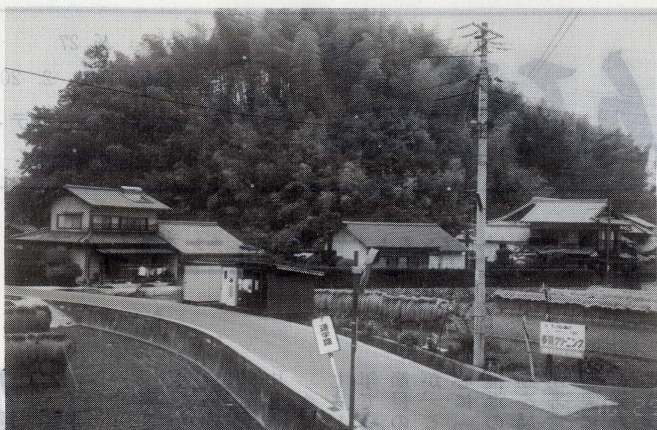
話題の金剛寺の地名、歴史的に考察した。由緒深い地名と思う。浜・胡の町内の行事の一端を紹介。創意工夫努力がうかがえる。

消える

丸子山

危険な急傾斜地の解消

地御前の町の中央に丸子山（通



消えゆく丸子山 どう生れかわる！

称）がある。急傾斜地の解除のために毎日山は削られ、以前の姿は消えつゝある。道路より平均三米の高さになる計画。

土取工事終了後は後山土地区画整理組合の計画によって宅地が造成される予定。

急傾斜地の解消のための土取工事は観音堂（北の町）でも実施済である。

干潟造成

丸子山の土砂5万 m^3 は干潟造成のために運搬された。

5丁目レストランに住友宮島寮間の前面百米沖まで干潟を作る。漁業振興のためカキ抑制棚として活用する。

・抑制棚

採苗したカキの種は採苗連のまゝ抑制棚に移す。この棚は干潮の時より高い位置にあるため、採苗連は海中につかっている時間が少なくなる。これはカキを大きくしないため（大きくなりすぎると翌

年の夏の産卵後に死ぬことが多い）と、環境の変化に強い抵抗力をつけさせるためである。

翌年の6月頃、採苗連からホタテ貝をはずして新しい針金に、一枚づつ、移しかえて垂下連を作り、筏に吊るす。

創意工夫で新しい町作り

丸子山土取工事で危険地域が解消され、住宅が建築され新しい町が誕生する。その土砂でカキの抑制棚を造成し、数量より良質の生産へ。よいことづくめの学校の社会科の教材のようでもあるが、反面、山林が住宅となると集中豪雨時の排水の問題等多く難点も続出するでしょう。造成以後の被害を最小限になるよう努力中と思わ

仮称、地御前

保健活動センター 福祉

保健福祉センターが金剛寺小学校の下に建設中である。県下二ヶ所、始めての施設である。初め木造の地区集会所の予定であったが

県費補助を受け保健福祉活動センター内を利用する形となった。

規模・内容の概要

敷地面積三八〇 m^2 ホール72 m^2

建築 一三〇 m^2 和室10畳

延床 二六〇 m^2

保健相談室、作業活動室、機能訓練室、事務室のある鉄筋コンクリート二階建てである。

設置の趣旨は

地域の中高齢者に対する保健活動や創造・生産活動のための便宜を総合的に供与し、中高齢者の健康の増進と積極的な生きがいを高揚させることにより、地域の福祉を増進させるとともに、地域のコミュニティ活動の推進を図るために保健福祉活動センターが設置されたものである。

以上が設置の趣旨であるが地域の人々の広く利用していただきたいと町福祉課の話です。

具体的に、どんな場合、どのように利用できるか、4月以降の問題と思う。喜ばしいことである。私達の生活に活力あるものにした。創意と工夫で生かし、地域のコミュニティ活動を推進したい。大きな目標を掲げて（S・F生）

金剛寺地名考

『金剛寺』とは地御前の大字の名称であり、現在は東西の町内会の名称として親しまれている。

なぜ、金剛寺、という名が生れたか

扇新開が一七一年前に造成される前は、二ツ山（通称）が海岸に迫り山肌が海にそそり立ち、外の地区の土質よりも堅い岩盤なので金剛地と名称がつけられたという説もある。

宗教的にも金剛杖等よく使われる言葉でもある。金剛寺が建立され、廃寺後も、金剛寺の字名となった。

芸藩通志には今から二九二年前（一六九五年）金剛寺新開が造成された記事はあるが地図には金剛寺跡だけ記入されている。

いつ頃創建されたか

六八七年前（一三〇〇）正安二年厳島神社の神主で廿日市桜尾城主であった藤原家5代親教は「金剛寺入道」と号した。

7代親直は龍翔寺入道（宮島の

なぜ廃寺となったか

風波の害の外に南北朝の争による政情の変化で自然に廃寺になったと思われる。

金剛寺の由来、現在いや将来も不明かも知れないが、昔はこの地には寺は存在していた事実是否定することはできない。由緒ある金剛寺の地名だと思ふ。

郷土史家渡辺通氏の『金剛寺地名考』を資料として文責伏本節夫

『芸藩通志』

文政三年（一八二〇年）一六七年前、頼杏坪（頼山陽の叔父）によって編集された。地御前村の戸数二八八戸、人口二二〇人

今と昔

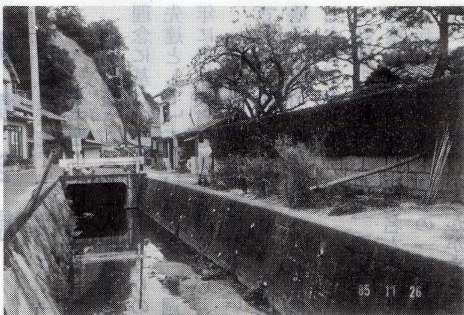
下の右の写真は昭和60年11月の

今市川河川改修前の状況

下の左の写真は昭和61年9月の

河川改修後の道路の状況

町は変化発展しつつある。一年前が過去となり昔となり、郷土の歴史となる。身近な歴史を学ぶ初歩でもある。



生涯学習

地御前小学校長
島田 貞登

昭和五十九年九月、臨時教育審議会が設置され、内閣総理大臣より「我が国における社会の変化及び文化の発展に対応する教育の実現を期して、各般にわたる施策に關して必要な改革を図るための基本的な施策について」諮問され、今夏、その最終答申が出されます。政府は答申の内容を受けて、具体的な施策にとり組むことになり、ますが、これまでの審議の中で、「生涯学習」という事が、大きな柱としてとり上げられました。日本の社会は、高度な技術革新に支えられ、成熟化、情報化、国際化が進む一方、平均寿命の伸びから高齢化も始まっております。そこで、社会の内部にある様々な問題を解決し、更に発展させるためには、教育・学習の役割の極めて大きいことを指摘した上で審議会は「生涯学習」の意義と必要性を訴え、生涯学習を可能にする条件整備、組織化、体系化を提言しております。

即ち、これまでの様な、学校教育主体の学習だけでは、到底、これからの社会の要請に切れなくなっており、学校教育を含む、生まれてから死ぬまでの、生涯にわたる学習が、必要として求められているわけです。

生涯学習の大切さは今に始まった事ではありませんが、社会を維持発展させるための柱として要請されたことは意義深いと思います。これから、小学校教育も、新しい方向を受けて指導内容も改訂されますが、基礎基本を重視した指導と共に、学習への意欲と伸びをかき立て、将来にわたって自分自身で学習をすすめようとする態度の育成が大きな課題となり、又、地域コミュニティとの有機的な連携も大切な要素になると思います。

町内ふれあいカラオケ大会



優勝は野坂の吉井律子さん
四月二十六日に行われた町内ふれあいカラオケ大会には地区内各町内会から、一名づつ出演され歌の好きな人、美声、特技のお持ち

の皆様で大変盛会でした。これもひとえに、出演者を初め町内会、役員の皆様のご協力の賜ものと深く感謝しております。出演者と会員がいつしよに練習し、出演を申し出ない町内では町内会長さん、町会議員さんの出演、ちびっ子、ジュニアバレー、公民館クラブの方々の共演の花を添えていただきまして誠にありがとうございました。



来場いただきご声援ありがとうございました。これからも仲よし会全員が力を合せ、話し合い、知恵を出し合い、楽しい公民館クラブ活動にしたいものです。
審査結果
優勝 吉井 律子(野坂)
準優勝 奥内 利久(南一町)
優秀賞 小林 順子(緑ヶ丘)

敢闘賞 西本 篤司(港元山 茂樹(浜の町) 北川 徳夫(要町) 戸田 将(田屋) 網谷 勝市(新港) 特別賞 船村 好美(新堀) 田川 義照(扇園) カラオケ仲よし会
秋祭！俵もみ行事について
青年会

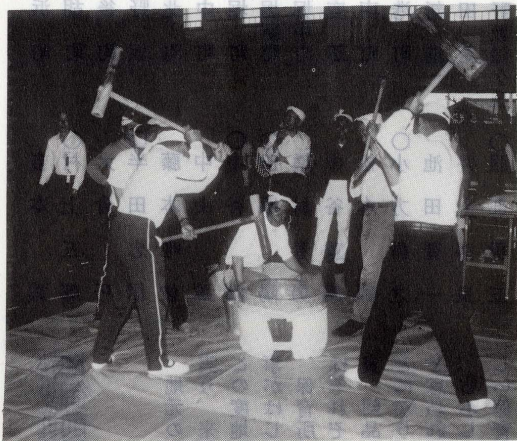
青年会コミュニティ結成十周年を記念して、来る十月十一日(日)に地域をあげて盛大に俵もみを行います。ついでには、かつぎ手を募集しています。高校生以上の方ならどなたでも参加して頂けます。申込先は地御前公民館三六二一三六〇へ申込んで下さい。夜間は懸空三六二二三七か美川三六二一八〇で受付けております。尚、地御前青年会では、ただいま会員の募集も行っております。男女を問わず、どなたでも入会を歓迎いたします。連絡先は右と同じところです。俵もみ参加とあわせてよろしくお願致します。

心のふれあう

明るくい住みよい地域に

昨年11月小方会長の急逝により本年5月7日の総会で会長に選出、前会長は温厚篤実、誠心誠意地域社会の奉仕に一生を捧げられ、今日の隆盛を築かれました。5月17日コ推協結成10周年記念式典と地区運動会をセットで実施。雨天のため体育館で行ない、予想以上の好成績を収められたのは、先輩達皆様の10年間の努力の結果の賜ものであると、ご苦労に對し深く感謝します。

私は皆様ご存じの通り粗野で浅学非才その器ではありません。先輩の労苦に報い、地域に恩がえしする意味で引き受けました。コミュニティとは地域住民の融和と連帯意識の高揚を目標とする。一口にいえば和の精神であり仲好しグループである。基本を考えながら諸行事を押し進めたい。※本年度の基本方針
住民相互の連帯を図り、心のふれあう明るい住みよい共同社会の建設を目ざしながら、生きがい



コ推協結成10周年記念行事
日時 5月17日(日)9時
場所 雨天のため小学校体育館
1 記念式典
2 地区運動会
3 特別出演
① 餅つき大会
② カラオケ
③ 踊り
運動会プログラムにコミュニティ推進協議会10年のあゆみ記載。上の写真・餅つき風景



今年度第一回の部会で実施が決
められていました。コ推協生活部と
公民館の婦人学級・永福学級・婦
人会四者の交流会が、七月六日、
百十数人ものかたがたに参加して
頂き、盛会のうちに開かれました。
最近婦人会が公衆衛生推進協議
会と協力して、成人病予防のため
の食事作りの普及活動に力を入れ
ておりますが、この度も保健所の
栄養士、細井先生のご指導の下に
減塩食の弁当を作り会食しました
この様な会のおとは出席した人
達が道で出会った時でも、お互い

四者の交流会 百十数人参加

婦人会



六十二年度活動として大きな目
標は「子供と大人のあいさつ運
動」を推進して行くことを決めま
した。最近では子供と大人が朝の
通学通勤時に顔を合せても「お早
ようございます」「お早よう」と云
うあいさつが出来ずこの子供だ
ろうと思うことがしばしばあり何
とかしようという話題にのぼり取り上
げました。手始めに地御前小学校
PTAで行なわれている朝の立哨
に参加しチラシ等を配り心のふれ
合いをPRする計画をしています

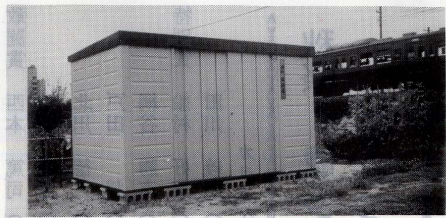
青少年部 活動計画



に親しい挨拶がかわされるようにな
るもので、物質的な価値が先行
してとなくギスギスしがちなこの
頃、ふれあいの場をもつ事が何よ
り大切な事だとしみじみ感じます
これからのいろいろな団体が交
流する事によって、地御前地区が
ますます心のかよいあった暖かい
地区になるよう願っております。
そのために婦人会もおよばずな
らお手伝いさせて頂きたいと思
います。
(山崎)

歩いて見ませんか
地御前街道歴史の散歩道
地御前コミュニティ文化部々員
は、堀の町子供会と共に五月三十
一日午前九時、地御前公民館前を
Eコース七・八キロの行程でスタ
ートし、町内の自然歩道を、由緒
ある歴史・神社仏閣を訪ねて、あ
る者は、宮司さん、住職さん、お

皆さんの御協力をお願いします。
さて年間行事としての一つとし
て管絃祭のバトロールを七月十二
日に公民館々長さんにも参加をい
ただき午後七時半から九時まで行
ないました。あまり目につく所は
ありませんでしたが、阿品中をは
じめ各中学校PTAの校外補導の
先生、父兄の方々、町民会議の方
々、数多くの人達もバトロールさ
れていて大変心強く感じました。
青少年部では地御前コ推協の腕章
を三十個購入し、早速バトロール
に使用しました。この腕章は公民
館に保管してありますので、各部
の行事等にも利用して下さい。部
員一同張り切ってこの一年間頑張
りますので皆さんの御協力をお願い
致します。
綱谷 勝市



要町、収納庫

要町では、長年の念願であ
った収納庫が、この程
J R線路沿に完成し、町内会総動員で、和気合々の
中に引越を終えました。(町内会長 高橋)

地御前コ推協文化部

町内会長 敬称略

旭町 ○打海 清治
扇園 ○村田 善三郎

金剛寺東 花田重之
金剛寺西 勝谷武夫
砂島 ○掛本 尚利
要町 高橋 一利

昭和62年度 コ推協収支予算書			昭和61年度 コ推協収支決算書		
収入の部 (単位 円)			収入の部 (単位 円)		
項目	予算額	説明	項目	収入済額	説明
会費	171,500	100円×1,715世帯	会費	171,500	100円×1,715世帯
助成金	160,000	町より	助成金	160,000	町福祉課より
諸収入	2,000	寄付金 利子	諸収入	40,738	寄付金 利子
繰越金	206,941	前年度より繰越	繰越金	160,858	
収入合計	540,441		収入合計	533,096	

支出の部 (単位 円)			支出の部 (単位 円)		
項目	予算額	説明	項目	支出済額	説明
運営費	67,000	会議費 10,000 事務費 10,000 地域活動費 30,000 雑費 17,000 広報費 90,000 文化福祉費 55,000 体育費 88,000 少年少女費 155,000 青年費 25,000 少年費 50,000	運営費	39,687	5,921 8,056 4,000 21,710 89,000 45,000 88,300 48,144 0 16,024
事業費	463,000		事業費	286,468	
予備費	10,441		予備費	0	
支出合計	540,441		支出合計	326,155	
			収入合計	533,096円	
			支出合計	326,155円	
			差引残高	206,941円	昭和62年度へ繰越

浜町 吉村 上五郎 巧郎 武
後坂 大村 倉五
野坂 半田 俊信
北町 藤山 唯
中町 中谷 満
堀新町 田原 陽
堀中町 増村 雄男
鹿町 中谷 重
南町 松本 昌
港町 小方 登
新屋 池田 喜
田屋 井上 良
野坂緑ヶ丘 服部 三
三景園 石川 孝
野坂住宅 金本 幸
海崎ヶ丘 岡本 光
光ヶ丘団地 戸川 義
阿品東 長門 春
阿品西 寺川 治
阿品団地 山根 公
阿品団地 三郎 義
鼓ヶ浜 三郎 義
田尻 新野 一
ふじタウン 水野 信
泉宮住宅 高橋 宣
昭孝 雄春 八郎 巳郎 義吉 光幸 三良 一之 武雄 男陽 満薫 俊信 巧郎 武

地元の皆さんの永い間の要望が
実り、来年の春の竣工をめざして
この度地御前保育所の建て替え工
事ははじまりました。
保育所の園児たちは、それまで
はそれぞれ別れて串戸、宮内、平
良、阿品台東保育所に通園するこ
とになり、保護者のご苦労は大変
と思われまます。
しかしながら園児たちには、新
しい保育所でのいろいろな経験や
お友達とのふれあいができこれか
らの成長に役立つことでしょう。
来年の春には新装になった保育
所に通園できる喜びがまつていま
す。二期は昭和六十六年二月末日
各保育所に通園する園児の数は、
串戸 六七名
宮内 一二名
平良 一三名
阿品台東 一二二名
建て替え工事中は、何かとご不
便ご迷惑をおかけすることと思
いますが、ご協力くださいますよう
お願いいたします。

地御前保育所の 建て替え

建て替え

大人も子供も みんなあつまれ

コ推協文化部

お父さん・お母さんたちが幼いころの遊びを子供たちと手を取りあって、教え学んでみようかな。お父さん・お母さん憶えていますか、私たち昔の遊びを伝えたいと思います。昔は学校から帰ると外に飛び出し道路か、田んぼが、絶好の遊び場であり、誰かが遊んでいた。多人数のときには、なわとび、ボールなげ、小人数のときには、竹馬、竹とんぼ、水でっぽうおじゃみ、まりつき、ゴム飛び、みんな自分で作っていた。どの子たちも暗くなるまで遊んで帰りよく叱られたものだ。とくに思いでにあるのがこま、こまが欲しくても、なかなか買えない昔はお正月でもお年玉ではない。でるのは大目玉。だが、くしんして今もある渡辺玩具店に行きケンカごまを買ってきてもつつけあって遊んだものです。

皆んなでふれあいの輪を作りましょう。

とき 3月13日 日曜日

じかん 9時から12時まで
ところ 地御前公民館

健康増進と ふれあいの輪を

コ推協体育部

コ推協体育部は二十名で結成されています。目的は「みんなが手をつなぎ、スポーツ、レクリエーションを通じて、体力づくり、健康増進とふれあいの輪を広げる」です。年間の事業として、次の三つの事を計画しています。一、地御前地区運動会。二、ふれあいゲートボール大会。三、ハイキング（歩こう会）です。一については五月十七日に実施いたしました。あいにくの雨で残念でしたが、地御前小学校体育館で多数の方々のご参加をいただき、盛会裡に終了いたしました。また、ふれあいゲートボール大会は、九月十五日に地御前小学校グラウンドで約六十名の方々のご参加をいただき、これまた楽しいふれあいの場をもつことができました。

地区運動会ともども、多くの方々のご協力とご支援をいただきます。

したことに對し、体育部員一同、深く感謝いたしております。

ハイキング（歩こう会）につきましては、来る三月二十七日（日）に予定しております。詳細につきましては、別途お知らせいたしますが、集合場所は地御前公民館。集合時刻は午前九時三十分です。多数ご参加くださいますようお願いいたします。

俳句クラブ作品抄

クラブ発足から九年目を迎える一月の句会で通算二〇九回、浅学非才の私について来て句作に精神して下さった方々に感謝すると共に折角こままで来られた方々に今後も挫折することなく精進していただくことを切望します。

柏手の 掌に神温や 初詣 吉本 鼓角
祝福の 二十歳の貌よ 街を行く 江草 柗堂
賽銭の 頭にぶつかり 初詣 幸田 清士
寒夕焼 オカリナ吹く子の 越智あきら
影を曳き ボール蹴る 簗野 道
三ケ日 過ぎし校庭

僧籍の 兄近きませり 親鸞忌

万葉の 恋歌が好き 歌留多とる 吉田 春

日の丸の 表紙割がせり 初暦 久

良き友の ありて楽しき 初笑い 常吉 のい

遠く来て 此処はザボンの 坂本 朝

初湯かな 唯謝すのみの 初暦 朝

新春の 香りグラスに メロン酒 佐伯よし枝

初釜や 正客様に 右ならい 松野 寿々

胸板を 貫き通り 除夜の鐘 丹良本香豆

大前 恵兵

編集後記

じこぜん広場も、今回をもって第二十九号の発刊となりました。今日まで記事や資料を提供して下さいました、皆様に厚く御礼申し上げます。次回第三十号は新生廿日市市制をテーマとして発行したいと思っております。皆さん奮って投稿して頂きます様お願い致します。原稿用紙は公民館に申出て下さい。原稿〆切は五月末と致します。

コ推協の活動に敬意

廿日市町長 半明 英夫

昭和六十三年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、本町の市制準備に關しまして、皆様方のご理解とご協力を賜わり、深く感謝を申し上げます。次第でございます。

また、地御前コミュニティ推進協議会におかれましては発足以來十年間にわたり、地方自治の原点であります市民意識の連帯のもと、より豊かな地域づくりに貢献されたことに對し、お祝いを申し上げますとともに、深く敬意を表しております。

顧みますと、昨年は、昭和二十二年、地方自治法が施行されて四十周年に当たる年であるとともに明治二十一年、市制町村制が公布されて百年目に當る意義深い年でありました。

本町におきましても、市制施行に向けて、町議会議決県議会の議決を頂くなど「新生廿日市」に向け大きく前進した一年でありま

した。これも偏に、皆様方のお力添えのたまものであると、ここに重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、最近のわが国をめぐる諸情勢は、国際経済摩擦や円高の進行といった厳しい環境の中、高齢化、高度情報化、国際化のいわゆる3K化が急速に進展し、個人所得、生活水準とも世界のトップレベルとなり、国民の価値感、生活意識は、多様化、個性化し、併せて国民生活の質的向上と安定性への指向が強まって参りました。この様な状況の中、二十一世紀へ向け、地方自治体も行政の効率化に更に力を注ぎ、住民の皆様の期待に於いて行く必要があります。

よって、私は、この様な社会経済情勢のもと、究極の目標であります「健康で文化的な人間性豊かな住みよいまち」を築くため、市制を施行し、都市経営を進めて行くことが肝要であると判断いたしました。誠にでございます。

しかしながら、まちづくりは、住民の皆様のご協力なくしては推進できないことは言うまでもございません。私自身、微力ではございますが、皆様方のお力添えのもと市制によるまちづくりを邁進する所存でございます。今後とも格別なるご指導、ご支援をお願い申し上げます。



ハコ推協どんと祭

なお、地御前コミュニティ推進協議会におかれましては、今後更に新たなコミュニティづくりの推進のもと、明かるく、ふれ合いのある住みよい地域社会の創造に向け、飛躍されることをお願いいたします。新年のごあいさつとさせていただきます。

じこぜんひろば



№ 29
発行 63. 2. 20
地御前コミュニティ
推進協議会

10年をふりかえり、さらに前進を！

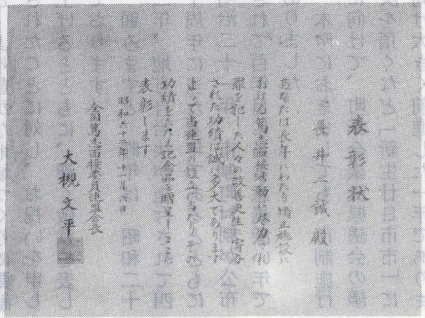
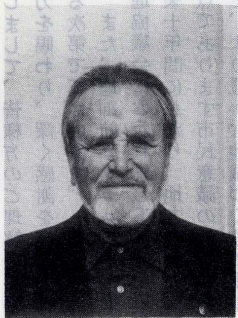
青少年に希望を

伏本 節夫

地御前南町村上百合子さんの家に居られる、長井一誠神父さんはフランス生れのアントワヌ・ドジャンジー(75才)さんで日本に帰化され(35年前)自分の信じている宣教師活動をされている。困っている人のために働きたい。道徳的貧困から罪をおかして少年院にはいつている人達に希望をもたせたいと法務省関係の手伝いをされている。

個人経営の福祉施設を村上百合子さんと協力して営まれ、赤ちゃんの時から四人の男女を養育し、現在中一、高一、高二へと成長している。我が子の教育でもむづかしい時期、本当にご苦労さんと思う。

日本に入国されて40年、日本人になりきって青少年に「希望」をすばらしい功績と思う。
村上百合子さんと共に左記の通り表彰されました。我が地区の誇りではないかと思う。

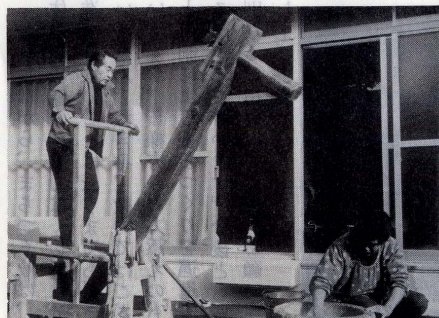


心の太陽

板垣 公朝

太陽が昇っていてもカーテンを開けなくては暗い。幸福にくらしても心の窓が開けてないと暗い。一才 乳に泣き

十才 菓子に泣き
二十才 愛に泣き
三十才 金に泣き
四十才 地位に泣き
五十才 名譽に泣き
六十才 老に泣き
七才 人生を暗く悲しく思うのは、欲に向いているからだと聞いている。誰しも心ひそかに願っているのは何時も三月 花のころ
お前 十八 わしゃ はたち
使ってへらぬ 金 千両
死なぬ子三人 みな孝行
死んでも 命のあるように
と言う境涯であると言う。
太陽を背にして、我が影を追えば、何処まで追っても追い越せないように、欲に向えば、果しない欲望を追い越すことは出来ない。太陽に向けば、我が影は後にあるように、コミュニティーに向けば欲を追い越した自分が発見できる「乳もあつた。菓子もあつた。愛もあつた。金もあつた。地位もあつた。名譽もあつた。そして老いも楽しい。」とにっこりしたい。コミュニティー活動は、参加する人にとって、心の太陽・心の窓であって欲しいと思います。



恒例の餅つき

浜之町々内会

昭和63年1月31日、今市集合所において、浜之町有志の方々の協力により古くから伝えられていた郷土の餅つき「昔はツコロツコロと呼んでいた」行事を昔ながらの杵・臼またダイガラ臼を使って子供達と共にを行った。男性は餅をつく人、出来た餅をもむ女性と、わきあい々と、出来た餅でぜんざいを作って食べながら親子ともども、歌も出る、昔話も出る、とてもたのしいひとときであった。

「推協」十年を

かえり見て

中山 薫

昭和六十三年の新しい年、それは、地御前地区にとっても、廿日市町にとっても、大きな、歴史的な節目を迎える、意義のある年となろうとしております。わが地御前地区は、コミュニティー推進地区の指定を受け、推進協議会が、結成されて昨年で、十周年を迎えました。この十年間私達は、新しい時代の住民の融和と連帯意識の高揚、そして住み良い地域社会の形成をめざして、さまざまな努力や行事等が行われ、大きな成果をおさめて来たと思えます。この「じごぜんひろば」も、五十二年八月の創刊号から、この二十九号の発刊まで、その一頁々を、ひもどくとき、地域のみなさまの、これまでの努力の数々をみることが出来ます。こうした「和」の精神の十年の運動は、一地御前地区ということにとどまらず、広く廿日市町全体に、大きく、そして、歴史的な意識として、政治的にも、社会的にも、この運動の輪はひろがっ

趣味と地域社会

井上 喜良

趣味というものは「努力せず長く続ける」こそ意義があります。努力するということが、無理をするということが同意語になるからです。職場での仕事とか、受験を控えた学生さんには努力も必要でしょうが、趣味に努力は必要ない



<コ推協秋祭り俄もみ>

と思います。趣味に努力を傾注しますと、日常の生活や身体、気持ちなどにどうしても無理がきます。従って長くは続かないということになります。
「〇〇」を趣味にしたいと願う人の思いは多種多様であります。その目的が達成されたら、その時点でやめてもよいわけですが、やめ

理せず努力せず、長く続けていくうちに、以前より健康になったとか、ストレスが解消したというふうになれば趣味としての「〇〇」も偉大であります。
その上で気分にもゆとりが生まれ、明日の一日が楽しく待ち遠しいということになれば、なお喜ばしいことです。
趣味とは個人的なものでしょうが、それでは物足りなさを感じます。従って、同じ趣味をもった人たちが、年令・職業・性別を問わず同好会の中で人と人とのつながりにより、社会性豊かな人間関係の一助になっていると思います。
最近「物の豊かさより、心の豊かさ」の声を見聞します。趣味を通じての人間関係を知り考えて社会の一人としての自覚の上でかけがえのない人生を、少しでも心豊かな生活を送りたいものです。
秋祭り・盆踊り・盆栽づくり・釣り仲間等、公民館での多くのクラブの集いが、わが町、わが地御前地域の活性化につながっています。これは、お互いに嬉しいことです。今後なお一層の活動を願っています。

じとぜんひろば



臨時号外
発行 63. 4. 10
地御前コミュニティー
推進協議会



可能性がエネルギー

HATSUKAICHI

昭和63年4月1日市制施行

皆んなで参加しよう市制イベント

4月1日市制施行にあたり地御前地区では 住民の皆さんに
参加をよびかけて下記のとおり祝賀記念行事を行います。

記

祝賀大運動会	63.5.15 (日)	9:00 ~ 15:00	地小グラウンド
演芸発表会	63.5.14 (土)	13:00 ~ 16:00	地小体育館
作品展示会	63.5.14 (土)	13:00 ~ 17:00	地御前公民館
〃	63.5.15 (日)	9:00 ~ 15:30	〃

演芸並びに出品展示を参加ご希望の方は

4月23日(土)までに 地御前公民館事務室までに
お申し込みください。

ふるってご参加, ご出品くださいますようお願いいたします。

市制イベント行事はコ推協各部をあげていろいろな趣向をこら
して盛大に開催します。地区住民皆様方のご協力を切にお願い
致します。